

<平成24年度>

鳥取県文化芸術事業

# 評価報告書

鳥取県文化芸術事業評価委員会

# ～ 目 次 ～

I 総合評価	1
II 実施結果概要	
1. 実施事業一覧	5
2. 評価の体系	5
III 事業別評価	
1. 第56回鳥取県美術展覧会（鳥取県文化観光局文化政策課）	6
2. 第3回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県文化観光局文化政策課）	8
3. とりアート東部地区イベント（東部地区企画運営委員会）	10
4. とりアート中部地区イベント（中部地区企画運営委員会）	14
5. 因幡バンド天国2012（鳥取音楽座）	16
6. 鳥取県写真家連盟第14回合同写真展（鳥取県写真家連盟）	18
7. 第39回鳥取県演劇連盟合同公演「伯耆星、来る夜」（鳥取県演劇連盟）	20
8. 長月をどり（鳥取県日本舞踊連合会）	22
9. 鳥取県シティバンドフェスティバル～吹奏楽の祭典～（鳥取県吹奏楽連盟）	24
10. 20周年記念コンサート「和太鼓ふるさとの響2012」（鳥取県和太鼓連盟）	26
11. 音楽日和ライブフェスティバル鳥取 Vol.14（鳥取音楽座）	28
12. RAKUGOPERAこうもり（鳥取オペラ協会）	30
13. 第36回鳥取県川柳大会（鳥取県川柳作家協会）	32
14. 2012鳥取県オーケストラ連盟演奏会鳥取公演（鳥取県オーケストラ連盟）	34
15. 第41回鳥取県短歌大会（第17回鳥取県民短歌賞）（鳥取県歌人会）	36
16. ヤングピアニストコンサート2012（鳥取県ピアノ指導者協会）	38
17. とりにん人形カーニバルインこどもの国（とっとり人形劇連絡会）	40
18. 「ダンスの日」記念ダンス交流会（鳥取県ボールルームダンス連盟）	44
19. 日韓交流民踊の集い 2012～心はひとつ おどりの輪～（鳥取県民踊指導者連盟）	46
20. 鳥取県三流合同謡曲仕舞大会（鳥取県謡曲連合会）	48
21. 第10回鳥取県民謡まつり（鳥取県民謡連合会）	50
22. 第17回鳥取県俳句大会（鳥取県俳句協会）	52
23. 県民による「第九」米子公演（県民による第九公演実行委員会）	54
24. 第34回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）	56
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	58
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	59
○鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	60

# I 総合評価

## 1. 鳥取県文化芸術事業評価委員会と評価方法

### 〈評価委員会の見直し〉

平成15年から9回にわたって行われてきた「とりアート」（鳥取県総合芸術文化祭）は初期の目標設定期間を終え、今年度から「新生とりアート」として再スタートした。それに伴って評価委員会も様態が変わり、とりアートだけでなく、県が実施および助成する文化芸術事業について広く評価することになった。名称も「鳥取県文化芸術事業評価委員会」となり、これまではとりアート実行委員会の中にあったものが、県に設置されることとなった。委員数も増えて、今年度は19名で評価を行った。

評価委員会は何のためにあるのか、何をすべきなのか——こうした疑問がこれまでも評価委員会内で出され、話し合ってきた。

県費を使って行う以上、その事業は県民に何らかの貢献をしていなければならないし、それをチェックする機関が必要である。私たち評価委員は、一般県民の目線で事業を評価し、そのことに意義があると考えている。とはいえ、さまざまなジャンルの事業がある中で、必ずしもそれぞれの分野について見識があるわけではないのに、「良い」とか「良くない」と言えるものなのかという声はあった。私自身も同様のとまどいを抱いていた。事業の内容ではなく、企画・運営を見るべきだという議論もあったが、内容と運営をきちんと分けるのは難しい。これについては、一定の事業に関して専門家評価を設けてきたし、今後も設ける予定である。専門家の評価を受けながら、私たち評価委員も研鑽を積んでいきたいと思う。

また評価委員会が出した報告書が、どれほど事業の向上に役立っているのか、という疑問の声もあった。今後はよりいっそう、分かりやすく役に立つ評価、事業改善につながるような評価をしていかなければならないと考えている。

そうしたこれまでの議論を踏まえつつ、今年度は当初より、評価のあり方および方法について話し合いを重ねていった。

### 〈評価のあり方〉

事業ジャンルによって多少異なるものの、大きな目標は「創造」「拡大」「育成」。より質の高い事業を、より多くの県民に、そして人材育成を図るということである。この大項目のもとに中項目の目標を設定し、さらに具体的な目標である小項目については、事業実施者に設定してもらうことにした。

評価は、その小項目ごとに「達成」から「未達成」までの4段階とし、実施者と評価委員会の評価を並べることで、より分かりやすいものを目指した。小項目の設定に関しては初めての試みであり、それを考える実施者の皆さんも大変だったと思うが、評価委員会のほうも、評価方式を作っていくという作業を課せられたわけで、試行錯誤で決めていった面がある。

また、評価の対象となるのは、単年ではなく継続実施される事業であるが、これは「人材の育成」という目標があるからである。人を集めるイベントならば、全国的にネームバリューのある人や団体を呼べば達成できるだろう。現に、安くない金額を出しても有名アーティストの公演に行きたいという人は多い。しかしそれだけでは、県民は文化芸術を「消費」する存在にとどまってしまうだろう。自らが文化の主体であるという意識は生まれにくい。

観客アンケートの内容も見直し、ジャンルごとに、これまでより具体的な項目を設定した。

文化芸術は一部の愛好者のためのものではなく、県民の生活に密接にかかわるものである。多少大げさに聞こえるかもしれないが、伝統芸能からポップカルチャーまで、幅広い文化芸術の担い手および鑑賞者を育てることは、鳥取県の文化度を上げていくだけでなく、県民の生活そのものを向上させていくことにつながるだろう。

こうした議論や評価活動を通じて思ったのは、評価委員会は事業の評価を行うことによって、実施者の皆さんとともに文化芸術活動を推し進める存在でありたいということである。評価委員も事業を通じて学び、議論を重ねる中で、望ましい事業のあり方、評価の仕方を模索していく。私たちは、より良い催しをより多くの県民に、と願っている。

## 2. 今年度の事業評価

平成24年6月から25年3月まで、27の事業が実施された。このうち25年1～3月に行われた3事業については、評価の都合上次期の報告書に掲載する。

それぞれの事業について、最少2名、最大10名の委員が実際に参加検証し、評価レポートを作った。これは、実施者による評価や観客アンケートを踏まえている。そのレポートを評価委員会で議論し、委員会の総意として作成したものが、掲載された評価シートである。

達成度は、「達成」=3「概ね達成」=2「一部達成」=1「未達成」=0と数値化し、パーセンテージで表した。なお「未評価」については、達成度のパーセンテージから除外されている。

各項目にはコメントをつけ、さらに全体の「成果」と「課題」を記した。「要改善事項」は具体的なこと、すぐにも改善可能なことに絞っているので、ぜひ対応いただきたい。

個々の事業については評価シートを見ていただくことにして、ここでは評価委員会で議論になった点、評価報告会で出された意見などをまとめておきたい。

なお、観客アンケートの回収率は、事業によってかなりばらつきがあった。アンケートが有効なものとなるのは、一般に回収率30パーセント以上とされており、10パーセント未満の事業については改善の努力を求めたい。

### (1) とりアート地区イベント

前年度まで9回行われてきた実績のもと、「新生とりアート」となった今年度は、東・中・西部とも実行委員会を一新して取り組んだ。ゲームや体験型などこれまでになかった企画があったり、地元商店街とのタイアップがなされたりと、意欲的な取り組みがなされたことは大いに評価したい。イベントの質も向上しているとの評価があり、より多くの参加者を取り込む工夫もなされていた。観客アンケートでも、好評の声が多い。

一方、共通の課題として上がったのは「まとまりに欠ける」「テーマが漠然としている」「求心性がなく核になるものが乏しい」といったことである。舞台・ワークショップ・展示などの複合イベントであるためやむを得ない面はあると思うが、より具体的なテーマ設定と、一体感のある会場作りを求めたい。

また広報についても課題があるとされた。評価委員会でも「賑やかさに乏しい」「盛り上がり欠ける」という声があったし、観客アンケートでも「良い催しなのに知らない人が多い」という声が多く見受けられた。

これに関して評価報告会で、地区イベントの担当者から「集客には我々も頭を悩ませている。有名アーティストには人が殺到するが、我々の事業はそれとは違う。努力はしているが限界もある」との意見が出た。別の参加者からは「個別事業での広報は難しい。一括してテレビなどで宣伝したらどうか」という意見もあった。

広報は難しい問題だが、10回目を迎えた「とりアート」が県民に浸透してきているのは確かである。この10年間の積み上げを踏まえ、とりアート地区イベントをどう考えるのかという議論も、評価委員会の中で出ている。事業の性質からして、まずは多くの県民に参加してもらい、文化芸術の楽しさや素晴らしさにふれてもらうことが目標と言えるが、質の良いものだからこそ、その目標が達成しうるのも確かだろう。質の向上か、裾野の拡大か。一挙に推進できれば一番良いのだが、言うは易し行は難しで、実行委員会でも議論が重ねられていると聞く。私たちも、評価の観点から事業の方向性を議論していきたいと考えている。

## (2) 舞台系イベント

伝統芸能、演劇、オペラ、舞踊、ダンス、クラシック演奏、バンド演奏など、多彩な事業が行われた。質に関しては、概ね担保されているという評価である。日ごろの活動の成果を見せる機会として、意義のあるイベントがそろったと言えるだろう。他ジャンルとのコラボレーションや、地域の祭とのタイアップを企画した事業もあり、チャレンジを評価したい。

共通の課題として、観客、とくに若い人の参加が少ないということが上がった。努力はなされているようだが、なかなか結果に結びついていないようだ。また、上演時間が長すぎるなど、観客目線に立った運営がなされているのかという声もあった。個々の事業については、それまでの伝統や固有の形式があることを承知した上で、より一般の人が鑑賞しやすい運営を望みたい。

広報に関しては、このジャンルもやはり課題と言えるが、中には、考えられる限りの広報手段を使った事業もあり、結果として着実な集客につながっている。ポスター、チラシ、テレビ、ラジオ、新聞等に加え、ホームページなどインターネットの活用も、重要な広報手段であろう。

## (3) 展示系イベント

絵画、写真、書道などの展示系イベントのうち、鳥取県美術展覧会は全県規模の催しである。56回目を迎える歴史とともに、県内美術製作者の登竜門であり、晴れの舞台となっている。主に審査方法や展示の仕方について、評価委員会の中でも議論が重ねられてきた。審査に関しては改善が見られるが、アンケートでも依然疑念の声が上がっており、さらなる公平性が求められる。作品の質は徐々に向上し、多様性も生まれてきているとの評価である。

他の展示イベントにも共通する課題として上がったのは、催しが一部の愛好者を対象としたものになっていないか、ということである。かなりの鑑賞者を集めた催しもあり、また鑑賞者数だけで判断できることではないが、日ごろ美術作品に接しない人には、どう鑑賞していいのかよく分からないという意見が出た。中には、ギャラリートークを実施したり、オープニングにコーラスを取り入れたところもあり、その点は評価委員会でもアンケートでも好評だった。そこをさらに一歩進めてほしいと思う。

とはいえ、これは実施者の努力のみで達成できることではない。県民に浸透している県展であっても、鑑賞者の年齢層は高く、若い人の姿は少ないのが現状だ。次代を担う青少年層を含む多くの人が、アートを通じて物事の機微を培ったり、人生の豊かさを感じるという機運作りは、社会全体で取り組まれるべきことである。学校などへの働きかけを含め、県にも機運作りを期待したい。

## (4) 文芸系イベント

短歌、俳句、川柳など文芸を愛好する人たちは、結社やグループに属している場合が多い。その垣根を越え一堂に会する機会として、いずれも意義のある催しである。

評価委員会はここ数年、身内同士の親睦・交流会になっていないかという指摘を行っており、これについての取り組みが、各団体でなされている。講師を呼んで講演をおこなったり、尺八演奏を取り入れたりと、一般の参加をうながす努力がなされていることは評価したい。

また各団体とも、小・中・高校から作品を募集し表彰して、人材育成を図っているのは素晴らしいと思う。子どもたちの作品は、大人とは異なる息吹を感じさせ、表彰式に参加した子どもたちがイベントに花を添えている。言葉による表現活動は、他ジャンルに比べ地味な印象があるが、いずれの催しも着実に回数を重ね、文芸の水脈を作っている。

とはいえ、まだ身内のイベント感が強く、外部から参加しづらい雰囲気があるのも確かである。会場案内、受付での対応、また部外者にどう参加してもらうかといった、細かい配慮がなされることを望みたい。

関係者のためのイベントになっているのではないかと、いう課題は、文芸系のみならず他ジャンルにもあてはまる。県費を使っているのだからというのはもちろんだが、自分たちの活動が県民の文化向上につながるという意識で、より開かれた催しになるよう努めてほしいと思う。

### 3. 今後の評価に向けて

最後に、次年度へ向け評価委員会の中で課題となっていることを記しておきたい。

今年度は、小項目目標を実施者に設定してもらった。主体的な取り組みにつながったのではないかと思っているが、反面、次のような課題が生じた。

高い目標を設定した場合、達成度が下がる。目標そのものは評価したいのだが、単年で達成できなければ評価は「未達成」になってしまうケースもあって、ジレンマを抱えた。裏返せば、設定目標が低い場合には達成度が上がるわけで、はたしてそれで良いのかという声が上がった。

これについては、まず実施者の皆さんに、自分たちの事業の何が問題なのかを把握していただきたいと思う。何が課題で何をクリアすれば、さらに良い催しになるのかが分かれば、次年度の目標が決まるはず。そのために、評価委員会は「成果」と「課題」を記しているつもりである。これまで通りにやっても達成できる目標ではなく、一つ上の目標を設定してもらいたいという思いがある。

評価委員会のほうでも、設定目標そのものを評価していかなくてはいけないのではないかという議論がある。とくに、とりアート地区事業については、共通の目標を設定すべき、また短期評価できる項目と、中長期に積み上げ評価していく項目を分けるべきという方向で、議論が進んでいる。統一テーマやストーリー作りについて検討が必要との議論もある。もちろん、実施者の自主性を尊重した上でのことであるが、東・中・西の連携を図ってより良いイベントにしていきたいとの思いから、そのような話し合いを進めている。

また事業評価に関しては、評価者の主観に頼らず、できるだけ客観的な評価をしていかなければならないと考えている。事業を観ただけでは分からない部分（企画立案・アートマネージャー育成・アウトリーチ活動・広報など）についても、実施者側と情報交換をして、一方的な評価にならないよう努めたい。

観客アンケートについても、答えるのは良かったと思う人か不満がある人かのどちらかであり、回収率アップを求めることがそれほど重要なのだろうかという議論があった。確かに「可もなく不可もなく」と感じた人は、アンケートに答えない傾向はある。とはいえ、観客や参加者の声を聞く努力を怠ってはならないだろう。実施者にとっては励みにも課題発見にもなり、私たち評価する側にとっても、客観的な評価の参考となるものである。

このように、評価委員会でも評価のあり方や方法について模索状態が続いている。しかし、それは決して否定的なことではないと思っている。個々の事業評価だけでなく、全体としての文化芸術活動の水準を上げ、より広範な県民参加をうながすためにはどうすれば良いのかを考えるのが、私たち評価委員会の仕事であり、そのためには今しばらく模索が続くだろう。実施者の皆さんとの連携もまだ不十分ではあるが、できるだけ風通しを良くして、文化活動活性化のために努力していきたいと思う。

平成25年3月

鳥取県文化芸術事業評価委員会

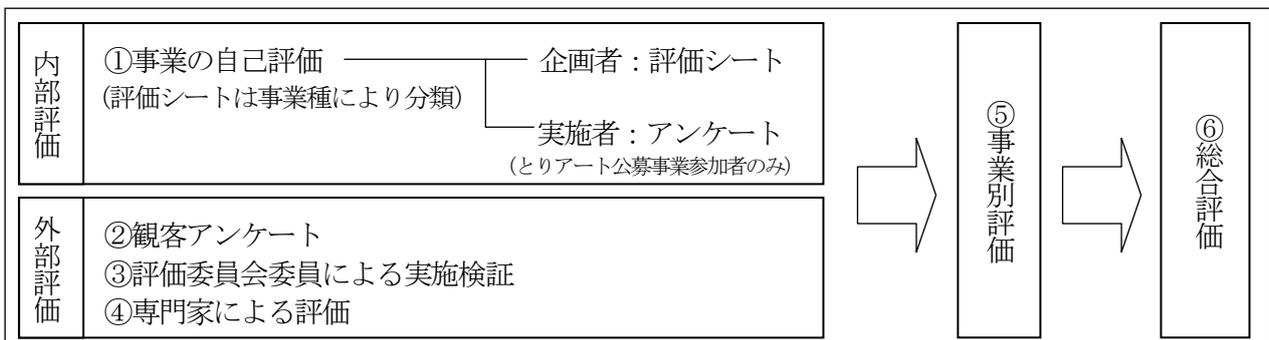
会長 松本 薫

## II 実施結果概要

### 1. 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	会場	実績		
					観客数(人)	アンケート回収率	観客の満足度
1	鳥取県	鳥取県文化観光局文化政策課	第56回鳥取県美術展覧会	鳥取県立博物館ほか	6,573	10.9%	91.0%
2		鳥取県文化観光局文化政策課	第3回とっとり伝統芸能まつり	米子コンベンションセンター(米子市末広町)	945	37.7%	97.2%
3	とりアート実行委員会	東部地区企画運営委員会	東部地区イベント	とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)	4,596	23.3%	94.2%
4		中部地区企画運営委員会	中部地区イベント	倉吉未来中心(倉吉市駄経寺町)	5,556	22.3%	97.0%
5	鳥取県文化団体連合会加盟団体	鳥取音楽座	因幡バンド天国2012	因幡万葉歴史館(鳥取市国府町)	アンケート実施せず		
6		鳥取県写真家連盟	鳥取県写真家連盟第14回合同写真展	倉吉博物館(倉吉市仲ノ町)	576	31.1%	97.8%
7		鳥取県演劇連盟	第39回鳥取県演劇連盟合同公演「伯耆星、来る夜」	琴浦町赤碕コミュニティセンター(琴浦町赤碕)	267	62.2%	97.0%
8		鳥取県日本舞踊連合会	長月をどり	鳥取市民会館(鳥取市掛出町)	905	7.6%	89.9%
9		鳥取県吹奏楽連盟	鳥取県シティバンドフェスティバル～吹奏楽の祭典～	米子市文化ホール(米子市末広町)	198	45.5%	94.4%
10		鳥取県和太鼓連盟	20周年記念コンサート「和太鼓ふるさとの響 2012」	鳥取市民会館(鳥取市掛出町)	626	22.0%	94.9%
11		鳥取音楽座	音楽日和ライブフェスティバル鳥取 Vol.14	とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)	220	47.7%	92.4%
12		鳥取オペラ協会	RAKUGOPERAこうもり	倉吉未来中心(倉吉市駄経寺町)	429	5.4%	65.2%
13		鳥取県川柳作家協会	第36回鳥取県川柳大会	さざんか会館(鳥取市富安)	106	65.1%	95.7%
14		鳥取県オーケストラ連盟	2012鳥取県オーケストラ連盟演奏会鳥取公演	とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)	577	11.6%	83.6%
15		鳥取県歌人会	第41回鳥取県短歌大会(第17回鳥取県民短歌賞)	琴浦町生涯学習センター「まなびタウンとうはく」(琴浦町徳万)	110	40.9%	91.1%
16		鳥取県ピアノ指導者協会	ヤングピアニストコンサート2012	鳥取市文化ホール(鳥取市吉方温泉)	306	19.3%	98.3%
17		とっとり人形劇連絡会	とりにん人形劇カーニバルイン こどもの国	鳥取砂丘こどもの国(鳥取市浜坂)	260	37.1%	100.0%
18		鳥取県ボールルームダンス連盟	「ダンスの日」記念ダンス交流会	中山農村環境改善センター(大山町)	120	28.3%	100.0%
19		鳥取県民踊指導者連盟	日韓交流民踊の集い 2012～心はひとつ おどりの輪～	鳥取市民会館(鳥取市掛出町)	954	50.0%	92.7%
20		鳥取県謡曲連合会	鳥取県三流合同謡曲仕舞大会	倉吉未来中心(倉吉市駄経寺町)	50	18.0%	22.2%
21		鳥取県民謡連合会	第10回鳥取県民謡まつり	鳥取市民会館(鳥取市掛出町)	500	53.4%	92.5%
22		鳥取県俳句協会	第17回鳥取県俳句大会	米子コンベンションセンター(米子市末広町)	75	57.3%	95.3%
23		県民による第九公演実行委員会	県民による「第九」 米子公演	米子市文化ホール(米子市末広町)	656	14.3%	93.6%
24		鳥取県書道連合会	第34回鳥取県書道連合会展	鳥取県立博物館(鳥取市東町)	593	12.3%	90.4%

### 2. 評価の体系



## 第56回鳥取県美術展覧会(鳥取県)

平成24年9月22日(土)～11月27日(火)、鳥取県立博物館ほか

### 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	質の高い文化芸術活動	8部門でコンペティションを実施し、優秀な作品に対し県展賞を設定し、県展にふさわしい作品を選定します。(各部門1点)	達成	概ね達成	受賞作はほぼ妥当。ただし無難な作が多く、新風の発掘を期待する声もある。部門による応募に隔たりがあるのはやむを得ないが、受賞にレベルの違いがあるのは避けたい。
		審査基準や選考過程、審査結果を公開し、透明度を高めます。	達成	概ね達成	審査は公開されて、透明度はかなり増している。依然として多い批判には、組織や感情論もあり、一様に肯定はできないが、地域や師弟関係の疑念には根強いものがある。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	新たな場所での展示により、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	概ね達成	未達成	米子市美術館が改修のため、西部会場は県立武道館になり賛否は分かれた。この際、新天地を開くためにも、境港市会場などへの移行は無理だったのであろうか。
		ギャラリートークの実施を通じ、県民の文化芸術に対する理解を深めます。	達成	概ね達成	展示会場でのトークは、作品を理解するうえで有効な手段である。しかし、途中で携帯電話が鳴って雰囲気乱すなど、基本的なマナーの欠如があった。要注意である。
総括			91.7%	50.0%	

## 【成果】

- ・郷土の幅広い公募展として、県展はアートの実地点を県民がともに楽しみ、一人ひとりが自分の目で確かめる絶好の機会である。日野の巡回展も、交通不便な住民にとっては温かい配慮だが、これも地域に施設があり、地元の熱意があってこそその賜物だ。
- ・各部門のレベルは徐々に上がり、作品の多様性も生まれてきた。部門によって応募には大きな開きがあり、やむを得ない要素もあるが、そのことでレベルが下がるのはなんとしても避けたい。生活に密着した工芸部門は、さらなる活性化を目指したい。
- ・彫刻点数も少ないが、近年は多様な作品が生まれ、従来の殻を破る意欲作も登場している。なかでも東西の二大宗教を合成して、平和と命への祈りを象徴化した『孤仏厨子』は、かつてない内容のスケールで作品提起の力もあった。
- ・作者の冒険心はもちろん、それを評価した審査員の積極的な姿勢も喜ばしい。応募者と審査員がこのように作品本位で臨めば、当落をめぐる雑音の絶えない県展も、よほどすっきりすると思われる。
- ・専用美術館が極めて乏しい県内において、県民の足もアートから遠のきがちである。だからこそ、県展は日常感覚で美術に親しみ、語り合う貴重な現場である。関係者の苦労は多いであろうが、さらなる努力と改革を望みたい。

## 【課題】

- ・審査への疑念が、相変わらず絶えない。当を得た義憤もあれば、利害関係の感情論もあろう。地域や派閥の対抗意識、組織がらみのアンケートもあり、審査が歪められた歴史もあった。ゆえに審査批判には、一様に論ずることのできない難しさがある。
- ・部門によっては審査員該当者が少なく、レベルを考えると、一定の偏りは避けられない場合がある。そうした現実を正視しないで、審査員が不当に非難されれば、これほど理不尽なことはあるまい。審査を県外に委ねる意見もあるが、問題を外部に丸投げすればいいというものではあるまい。ことは地方文化の主体性に関わる、本質的な事柄である。無責任な非難中傷に対しては、敢然とした姿勢で望まれない。
- ・書部門には、釈文や要約を望む声が多い。難解な漢詩漢文や草書など、現代人には読みきれない難物だ。書に親しむために、応募段階での釈文添付を規定してはどうか。開幕の演奏が消えたのは寂しく、県のしおりに県展を知らせる記事がないとの指摘もあった。観客マナーが悪ければ、即刻注意も必要だ。美術館で、携帯電話の使用は禁止である。
- ・鑑賞の大半を50-70代が占めており、将来を展望すると憂慮すべき問題だ。県内は日常的にアートを観られる環境がなく、長らく店ざらしになっている県立美術館の設立を希望する意見もあった。もはや避けて通れない、重要課題であろう。

以上を踏まえ、以下の点について指摘したい。

### 1 無鑑査作品の取り扱いを再考すべき

無気力な無鑑査作品が、大きなスペースを奪っているとの批判も多い。出品者の自覚を待つ以外に有効な手立てはないのであろうか。審査員と応募者に関わる噂も、あとを絶たない。作品論からかけ離れた話題は、純粋な気持ちで応募し、審査している人たちからみれば、意に反するものであろう。

### 2 審査方法について議論を深めるべき

審査の点数制度については、大激論があったと聞く。拮抗した意見の通り、スポーツとは異なり、アートには点数が馴染まない。よりよき審査のために、議論の練り上げを期待する。審査とはなにかを熟考するのは、委員自らの姿勢を点検する機会でもあり、作品を練磨する上でも無意味ではあるまい。

### 3 観客数増加の努力をすべき

観客の増大策として、団体鑑賞や学校鑑賞への提言もあった。しかし、以前よく見られた屋外教育は、社会変化に伴いめっきり敬遠されている。美術や音楽も選択科目になり、アートで物事の機微を培い深める感覚は、教育現場から衰退している。

### 4 社会において芸術の理解を深める努力をすべき

芸術への接近には、政治行政、教育現場、社会環境の大きな壁があり、保護者や企業の理解も欠かすことができない。それにどう取り組むのか、県展も例外ではないのである。重くて大きな課題だが、文化の衰退は生活や思考の根底に関わる重大事。関係者の努力に感謝するとともに、さらなる充実を期待せずにはいられない。

### 第3回とっとり伝統芸能まつり

平成24年8月5日(日)、米子コンベンションセンター

#### 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	伝統芸能活動団体の意欲向上につなげるため、たくさんの県内伝統芸能活動団体の発表の場を設けます。	概ね達成	概ね達成	県内で地道に活動を行なっている9団体に発表の場を提供すると同時に、地域に大切に受け継がれてきた伝統芸能を、県民に紹介する良い機会となっている。どの演目もレベルが高く、携わっている方たちの真摯な取り組みが、鑑賞者にも伝わった。
		若い世代に広く伝統芸能を鑑賞いただき、興味を持ってもらうような工夫を行います。	一部達成	一部達成	高校生のボランティア参加など、若い世代を取り込む努力は評価できるが、鑑賞者の数はまだまだ少ない。
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	ホームページ上で表彰・出演団体の活動状況を紹介するなど、県内伝統芸能の情報発信に努めます。	概ね達成	一部達成	ホームページでの情報発信は、若い世代には効果がある。しかし、鑑賞者の大半を占める高齢の世代には、他の形での情報発信も考える必要がある。
創造	質の高い文化芸術活動	演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容となるよう努めます。	達成	概ね達成	どの演目も、土着性の中にも気品を備え、一定のレベルに達していた。ただし、1団体の上演時間は適当と思われるが、合計3時間の公演はやや長すぎる。フィナーレの演出は、出演者と観客の一体感が感じられて素晴しかった。
拡大	県民の文化活動支援	県外・海外の芸能団体を呼び、地元の芸能団体と交流をすることで、文化芸術活動の裾野拡大を行います。	達成	達成	沖縄のエイサーと、韓国東草市の伝統芸能は、共に華やかで、迫力があり、観客にとっても見応えがあった。地元の伝統芸能継承者にとっても、意義のある交流だった。
		地元行政や地域に根ざした祭りや連携することにより、より多くの県民の方に伝統芸能を鑑賞いただく機会を提供します。	概ね達成	概ね達成	「米子がいな祭り」とのコラボは、両方に相乗効果があった。今後はさらに連携を深めて、鑑賞者拡大に繋げてもらいたい。
		ボランティアを広く公募し、県民に文化活動に触れる機会を提供します。	概ね達成	概ね達成	西部地区の高校生約30人、一般人約10人のボランティアが参加。高校生にとっては、地域の文化活動にふれる良い機会となり、学ぶことも多かった。
	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民への周知を図るため、老人施設等でのプレイベント実施をはじめ、地元祭りでのチンドン屋やCM告知など、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努めます。	一部達成	一部達成	地元の祭りでのチンドン屋は、面白い試みであり、多くの人の目を引いていた。媒体を活用した広報活動も積極的に行なわれた。老人施設でのプレイベントは実施されなかったようであるが、次回、ぜひ、実現してもらいたい。

育成	人材育成 (指導者、 後継者等)	高校生に参加してもらい、伝統芸能への興味喚起・後継者の育成を図ります。	概ね達成	概ね達成	3校からの高校生たちの意欲的なボランティア活動は、伝統芸能への興味の表れであり、今後に期待が持てる。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもが見てもかっこいいと思えるチラシとHPを作成して県内の小中高校へ配布するなど、多くの子ども達の鑑賞につながる工夫を行います。	一部達成	未達成	チラシのデザインはカラフルでそれなりに視覚に訴えたが、子供にとって、魅力あるものだったのかは、疑問が残る。子供の鑑賞拡大を図るなら、アウトリーチ活動など、ほかの方法を探る必要がある。
		総括	63.3%	53.3%	

## 【成果】

- ・県内10団体、県外・海外2団体が参加。来場者数は945人と、イベントとしての成果は出ている。
- ・出演団体の技量レベルも高く、地道に活動している人たちに発表の場を提供できたことは、有意義といえる。
- ・観客、特に初めて鑑賞した人にとっては、伝統芸能の素晴らしさ、楽しさを体験したことで、郷土の文化に対する認識が深まった。
- ・舞台を見ただけでは理解しにくい演目の背景を、パンフレットで丁寧に解説したこと、また、似たような舞台が続いてマンネリになるところを、二人の司会者が上手にフォローして観客を飽きさせなかったことは評価できる。
- ・「米子がいな祭り」との連携が成功していた。
- ・新聞折込によるチラシの配布は、効果的だった。
- ・観客アンケートの中で、係員の対応が高く評価されている。

## 【課題】

- ・会場へのアクセスが申し分の無い条件でありながら、鑑賞者の数は多いとは言えない。鑑賞者、なかでも、若い年代の鑑賞者の拡大が課題といえる。
  - ・子供の鑑賞者拡大のために、子どもたちの団体の参加を検討してもいいのではないか。
  - ・「米子がいな祭り」の人の流れを、会場に誘導する工夫が必要。
- 途中、15分の休憩があったとはいえ、3時間という上演はやや長すぎる。もう少し、コンパクトにしたほうが良い。

とリアート東部地区イベント(とリアート東部地区企画運営委員会)

平成24年11月23日(金・祝)・24日(土)、とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	地域に根ざしている文化芸術を取りあげる等の工夫により、文化芸術の裾野拡大を目指します。	達成	概ね達成	主として地元で活動する団体等を多数出演させた。オープニングイベントの因幡麒麟獅子舞踊り比べは、発想は良いし意義のある企画だと評価できるが、演出に工夫が足りず、結果として鑑賞者を引き付けることができていなかったのが残念である。
		ワークショップ、ステージなどを通じて、国際色を豊かな事業を行います。	一部達成	未評価	何をもち国際色豊かとするのか、あるいは何を目的に国際色豊かな事業を行うおうとするのかが、全くわからなかった。単に英語の歌を歌ったとか、ジャズやフラの公演があった等の事実のみで何をどう評価しろというのか。目的と手段を明確に設定してほしい。
		広域的なアウトリーチ活動を複数回行い、新たな鑑賞者・活動者の発掘に努めます。	概ね達成	一部達成	準備、マンパワーとも不足し、2回行ったのみであり、広域的活動とは言えない。また、そのアウトリーチで新たな鑑賞者・活動者が発掘できたかどうかの検証は行われておらず、今後につないで行く意欲があるのか疑問に感じる。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	こどもの遊び場や託児所を設けたり、バリアフリー化することで、誰もが気軽に来場、鑑賞できる環境づくりに努めます。	達成	概ね達成	託児所は設けられていなかったが、年少者向けのワークショップにたくさんの子供たちが参加していた。障害者への配慮もされていた。高校生ボランティアスタッフが丁寧に接客し、気軽に誰でも楽しめる会場作りができていた。
		事業実施前には駅前通り及び商店街に、事業当日は会場周りにのぼりを立てて賑やかな街づくりに努めます。	達成	一部達成	オレンジ色ののぼりはよく目立っていた。しかし街全体が賑わっている雰囲気は乏しかった。東部地区全体のイベントである事を考えれば、駅や商店街周辺に幟を立てるだけで良かったのかも考える必要がある。
		県民にイベントの情報が届きやすいよう、広報物の内容や設置方法を工夫します。	概ね達成	一部達成	独自の広報物を作成し、配布・設置したが、周知に課題が残った。各戸に情報が届く手立てが必要。広報にWEBが活用仕切れていない。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	事業テーマを明確にし、事業内容の充実を図ります。	達成	一部達成	テーマが情緒的で漠然としていた。各事業が細切れの切り貼りであり、全体の統一感を欠いた。
		参加者全員会議、クロージングイベントへ歌唱での参加など、出演者同士の交流を図るよう促します。	達成	概ね達成	参加者の交流・連携を図る工夫として評価できる。
		公募事業の質の向上とテーマとの関連付けを計るため、必要に応じて出演者にアドバイスをを行います。	概ね達成	未評価	どのようなアドバイスを行ったのか、評価者には見えない。
	良質な作品の提供	必要に応じて出演者に対してオーディションを行い、質の高い事業となるよう工夫します。	概ね達成	一部達成	フリースペースでの演目には良質とはいいがたいものもあった。事業レベル担保措置が望まれる。
人材育成	活動者（指導者、後継者、担い手）の育成	地域の若年層や白兔養護学校など教育機関との連携により、文化芸術の担い手を育成します。	概ね達成	概ね達成	会場係などのボランティアスタッフとして学生や生徒の姿が見られた。また出演団体にも高校生の団体があり、その点では達成と評価できる。今後も継続して教育機関と連携し、学生・生徒の参加が更に増える事を期待する。
		鑑賞者がワークショップなどを行った後で、クロージングイベントで発表する場を設けるなどの工夫をします。	一部達成	一部達成	参加者数が不十分。
		作品制作過程をこどもたちに見せたり体験させたりすることにより、育成を図ります。	概ね達成	概ね達成	こども向けワークショップを展開し、創作の場を提供していた。
	鑑賞者の育成	フリースペースでのオープンなステージ設定、気軽に参加できるアートのワークショップなど、誰もが気楽に会場できる雰囲気の間作りを努めます。	達成	概ね達成	フリースペースは軽快な雰囲気作りをしていたが、会議室、リハーサル室、練習室は少し入りづらかった。どこで何を行っているかの案内がわかりにくかった。
ハイレベルの出演者を迎える小ホールコンサート、定評のある団体によるオープンステージのパフォーマンスや、若手アーティストが行うワークショップなど、鑑賞者を惹きつける、質の高い事業作りに努めます。		達成	概ね達成	事業の質については玉石混淆だった。鑑賞者の育成は、良いものを体験してもらう事でしか行えない。一定の事業レベルを確保するために、オーディションを行う等の事前審査を行うべき。	

人材育成	鑑賞者の育成	MCや解説などを工夫し、事業の内容を鑑賞者に分かりやすく伝えるように努めます。	達成	概ね達成	MCによって演目の解説や他事業の紹介など、全体的に丁寧な情報提供がなされていた。しかし、途中から鑑賞を始めた場合、全体的に何をやっているのかわからなかったという評価もあった。
	アートマネージャーの育成	様々な専門知識を持った人と関わりを持ち、意見交換に努めます。	概ね達成	未評価	評価者には見えない部分である。アートマネージャー育成には時間と経験が必要であり、1年毎の評価になじまないのではないか。
	技術者の育成	様々な専門知識を持った人と関わりを持ち、技術力の向上に努めます。	達成	未評価	評価者には見えない部分である。
	支援者の育成	オープンステージで切れ目なくパフォーマンスを行うなど、鑑賞者がたくさんの団体を見られるように工夫します。	達成	概ね達成	オープンステージの進行はスムーズだった。アンケートでは間延びしているという指摘もあり、切れ目無くというわけではなかった。
		事業実施後に使用可能な特典を設けるなど、地元商店街からの支援の拡大につながる工夫を行います。	達成	概ね達成	スタンプラリー、クーポン、抽選でエコバッグ進呈などを地元企業の協力を得て実施したが、利用率は低迷した。とりアート鑑賞者のニーズがどこにあるかを、まずリサーチしてから企業に協力を依頼する事が必要なのではないか。
	育成した人材を活用する場の提供	様々なイベントへの派遣を積極的に行い、人材の活躍の場を広げます。	概ね達成	未評価	評価者には見えない部分。
		若い人たちの意見を多く取り入れながら、事業を進めるよう努めます。	達成	概ね達成	実行委員のみならず、出演者、ボランティアスタッフにも若者の参加者が増えたことは良い。若者が意見を出しやすい雰囲気作りなど、更なる努力を期待する。
	総括		81.8%	54.9%	

## 【成果】

- ・フリースペース特設舞台を中心に、大ホール以外の会場全部を使ったダイナミックな事業展開を行った。事業数46、実施者が500人を超える大型イベントであるが、実行委員会方式によりスムーズに運営することができた。
- ・実施者に若者が増えたことで、より多様な視点から企画運営をすることができ、同時にノウハウ継承の機会となった。幅広い年代に向けたワークショップやイベントが企画され、鑑賞者の裾野を広げた。
- ・イベントやクーポン券提携で地元企業との協力関係があり、支援者拡大の取り組みとなった。

## 【課題】

- 1.テーマ設定による実施者の意識改革と企画のレベルアップ
  - ・各事業が切り貼りので求心力を欠いている。明確なテーマ設定の必要性を第9回評価で指摘したところであるが、再度指摘しておきたい。各事業が有機的につながる「核」、あるいは「ストーリー」が欲しい。
  - ・地区事業継続の意義と目的を明確にし、実行委員会として具体的目標を持つべき時ではないか。
- 2.より効果的な広報および鑑賞者開拓
- 3.事業の質の担保措置

とリアート中部地区イベント(とリアート中部地区企画運営委員会)

平成24年11月17日(土)・18日(日)、倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	身近な生活や歴史のテーマを取り上げる等の工夫により、文化芸術の裾野拡大を目指します。	概ね達成	達成	打吹太鼓や鍛冶物の歴史の展示、民話の集いなどの身近な生活のテーマが取り上げていた。
		幅広い文化芸術分野の事業を実施します。	概ね達成	達成	アニソンライブなど今まであまり見られなかったジャンルが取り上げられていた。
		新たに文化芸術活動を始めたいという方をサポートする仕組みを作ります。	一部達成	概ね達成	来場者がチャレンジできるワークショップや展示がみられたがさらに踏み込んでサポートしてほしい。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	気軽に鑑賞できるオープンスペースでの企画を充実させます。	達成	概ね達成	来場者が気軽に立ち寄れるスペースでの実施はよかったが、ステージの演出や構成にさらなる工夫がほしい。
		情報が広く行き渡るよう、マスコミ(新聞・ケーブルTV)や行政(広報誌等)と連携し、効果的な広報を実施します	概ね達成	一部達成	新聞やケーブル、他イベントでのPRを行っていたようだが、まだ効果的とはいえない。
		運営スタッフ等を広く募り、文化芸術に携わる機会を提供します。	一部達成	一部達成	ポスター、チラシ等での募集を行ったが、あまり集まらなかったようだ。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	異なるジャンルの文化団体との連携等を通じて、質の高い企画を実施します。	概ね達成	達成	バレエと打吹童子ばやし、アニソンライブとダンスなど異なるジャンルのコラボレーションによって新たな魅力を引きだしていた。
	良質な作品の提供	委員が主体となって実施する企画に於いては、質の担保に努めます。	達成	達成	質が高くエンターテインメント性の高い企画があった。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	地域の公民館や教育機関(保育専門学院、教育委員会)との連携により、後継者や担い手を育成します。	概ね達成	一部達成	他会場に比べるとまだ連携不足と感じた。
		次世代を担う子どもたちや若年層の発表の場を提供します。	達成	達成	中部少年少女合唱団、ジュニアオーケストラなど子供の参加できる企画があった。
		地域の伝統文化の継承者と連携し、事業を実施します。	概ね達成	達成	倉吉民話の会、倉吉打吹太鼓、ふるさと民話の集いなど。

人材育成	鑑賞者の育成	世代や性別を超えて誰もが楽しめる企画を実施します。	概ね達成	概ね達成	地域の伝統芸能、アニソンライブ、ダンスなど様々なジャンルが取り上げられ若者から年配の方まで様々な年齢層をターゲットにした企画が取り上げられていた。
	アートマネージャーの育成	若手のアートマネージャーを選出し、委員会全体で育成します。	概ね達成	一部達成	委員の中から若手のアートマネージャーを選出したようだ。
	技術者の育成	舞台技術の講習会を開催し、スタッフの技術力の向上に努めます。	未達成	未達成	企画のみで実施できず。
	支援者の育成	異業種と連携することで、支援者を広げるよう努めます。	一部達成	一部達成	食コーナーの実施を行っていたようだが、更なる地域への支援者をつなげるよう努めてほしい。
	育成した人材を活用する場の提供	文化団体や活動者の交流を促進することで、人材の交流を活発化させます。	一部達成	一部達成	委員同士での交流がみられるようになったようだが、これを外に広げるための機会や場所はまだまだ不十分といえよう。
総括			60.4%	62.5%	

## 【成果】

- ・中部地区の身近な文化や歴史を取り上げることで芸術・文化への入り口を広げ、またアニメソングなどこれまであまり見られなかったジャンルを取り上げることで、鑑賞者の芸術文化に触れるハードルを下げる事ができた。
- ・クイズラリーなどのサブイベントを取り入れることで鑑賞者の参加意識を高める事ができた。
- ・各イベントが、回を重ねるごとにレベルアップしている様子が客席の反応から感じられた。

## 【課題】

- ・各イベントは積み重ねもあり質の高いものになっているようだが、それらを取りアート全体として総合的に演出することができていないように感じた。
- ・東部と西部にも参加したが、サインや案内板、飾り付けなど会場の演出が他の会場に比べ弱いと感じた。ステージイベントではしっかりとMCをつけることでイベントを盛り上げ、また鑑賞者を引き込むような演出があってもよいと思う。
- ・一部のスタッフの中にはイベントの内容を把握できていないのではないかとと思われる人もあり、上手くコミュニケーションがとれなかった。
- ・クイズラリーの問題に不備があるなどチェック体制の甘さも見られた。
- ・広報活動については頑張っているようだがまだ一般の県民にまで認知されていない。
- ・教育機関との更なる連携を。

因幡バンド天国2012(鳥取音楽座)

平成24年6月24日(日)、因幡万葉歴史館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	県民の参画支援	鳥取の軽音楽の盛り上げを図る。音楽祭典とする。	概ね達成	概ね達成	・秋の「音楽日和」と同様の開催形態、顔ぶれで、発表の機会が増えたのは朗報だろうが、主催者の目標が見えない。 ・老若男女が野外ステージで熱演し、会場と出演者が親密な雰囲気。ただし聴衆は絶えず入れ替わり、会場が満員にはならない。
		いろいろなジャンルや、初めてというグループにも参加して頂きます。	達成	達成	・ハードロック、フォーク、軽音楽まで幅広いジャンルのグループが集い、午前11時から夜7時までの長時間ライブを実現。 ・演奏順番に配慮を。フォークばかり続くと飽きる。聴衆の対象や方向性を明確にしてはどうか。
拡大	県民の文化活動支援	地元のアマチュアグループに発表の場を提供し、他のグループ、団体などとの交流も促す。	概ね達成	概ね達成	・バンドの交流イベントとしては成功。 ・文化という到達度はないが、「楽しめるイベント」としては成功。全体の底上げを。
		地元の団体(幼稚園児演技、中学校ブラスバンド、高校吹奏部)などの参加を検討する。	未達成	未達成	・「バンド天国」と銘打つだけに、吹奏楽や幼児の演技が入ると、聴衆が引いてしまう。 ・無理をして組み込まなくていいのではないか。
	県民への鑑賞機会の拡大	ポスター、フライヤーの他新聞、ラジオ等で広報する。	一部達成	未達成	・広報PRは弱かった印象。 ・聴衆の行動パターンを見ていると、出演者の関係者が多そうで、もっぱらロコミで集まってきたのではないか。
		会場を公の(因幡万葉歴史館 伝承館野外ステージ)とすることで分かり易く、駐車場もあり、歴史館への入館も期待できる。	概ね達成	未達成	・なぜ会場に万葉歴史館を選んだのか。万葉歴史館を見たくて訪れた客と、バンド天国の聴衆はまったく別人種。 ・家族連れが来やすい会場だった。 ・「因幡」と銘打ってはいるが、他地域からだとは分かりにくい会場。 ・舞台裏が見えないように配慮を(演奏中に裏方の動きが目障り)
		B級グルメ天国として屋台販売業者、またキッズ天国としてミニ遊園地コーナーなどを展開し幅広く楽しめませう。	達成	達成	・B級グルメの屋台コーナーや、演奏中に子供たちが飽きないようにキッズコーナーを設けるなど、来場者がくつろげる工夫。 ・会場でボランティアが出演パンフを常に配り、喫煙場所などの仕切りもきちんとできていた。運営面はしっかりしていた。
	総括			61.9%	47.6%

## 【成果】

- ・音楽ライブのイベントとしては、キッズコーナーやB級グルメの屋台村など、来場者をもてなす工夫があり、運営面は手練というか、しっかりしていた。喫煙場所の誘導案内や飲酒の注意事項、また新しく来場した聴衆にはすぐにスタッフが出演プログラムを手渡すなど、受付の対応の仕切りも行き届いていた。
- ・内容面では、ベテランから初めてライブに参加したグループまで、出演者はバラエティに富み、会場はなごやかな雰囲気。天候にも恵まれ、くつろいだ雰囲気の中で各自が音楽を楽しんでいた。
- ・ただ「楽しめるイベント」としては及第点をあげられても、これが鳥取県民の「芸術文化」であるのか、という観点から見ると、あまり説得力のある答えが見出せない。

## 【成果】

- ・せっかく設けたB級グルメやキッズの遊び場コーナーだが、演奏者が交代するたびに聴衆の方も動き、あまり満員の風景を見ていない。結局、イベント自体を見に来る人より、出演者を見に来る、応援しに来た人が大半なのではないか、という見方もある。
- ・評価委員の中からは、これが「若者による野外コンサートの実施であれば、文団連が助成する必然性はない」という厳しい意見もあったが、補助金ですべてまかなっているのは、やはり違和感があった。来場者がB級グルメを楽しみ(食事そのものは有料だが)、キッズコーナーを利用して一日楽しむのなら、やはり無料より有料催事の方が趣旨にあっていたのではないか。
- ・「入場無料」だから人が来るというわけでもない。むしろ「知っている出演者が出る時だけ行く」という状況を招いてしまう。ここまで出演者とスタッフががんばって企画し、運営しているのだから、300円でも200円でもいいから有料チケットをつくり、知り合いや家族や職場の友人に売り歩く、そのこと自体が客を呼ぶ大きな原動力であり、主催者の一体感を生み出す。

鳥取県写真家連盟第14回合同写真展(鳥取県写真家連盟)

平成24年7月14日(土)～22日(日)、倉吉博物館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と 再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	地域作家の作品や地域に根ざした作品を取り上げ、展示を行います。	達成	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>作家の紹介もなく、愛好家の展示会の印象</li> <li>砂丘、大山など地域に根差した撮影対象が多く、好感が持てた。</li> <li>県内の写真文化の広がりを感じた。</li> <li>グループごとの写真の羅列のみでは合同展として企画として魅力に欠けるのでは。</li> </ul>
	鳥取の文化アイデンティティの確立	地域をモチーフにした作品も展示し、文化アイデンティティの確立に努めます。	達成	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>見たことのある鳥取の風景を題材にしなが、個々の視点で撮った写真は新鮮。</li> <li>鳥取の自然、街角、祭りに郷土愛を感じた。</li> <li>量・質とも県内アマチュア写真展の集大成</li> <li>合同展としてテーマを決めたコーナーが必要では。</li> </ul>
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	鑑賞しやすい展示を目指し、所属グループの表示など、様々な工夫を行います。	達成	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャプションが団体ごとにまちまちで見にくかった。団体の紹介もあれば。</li> <li>特に展示が工夫されているとは見えない。</li> <li>ガラス越しの作品は見にくい。</li> <li>どの団体がどこに展示、という見取り図を。</li> </ul>
		異なる文化芸術ジャンルの団体との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	達成	一部達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>演劇のチラシにイベントが紹介されていたが、異なるジャンルとの連携はこのこと?</li> <li>演劇との連携で効果があったか数値を。</li> <li>異なるジャンルとの連携は特に感じない。</li> <li>「演劇時のスナップ撮影を写真家連盟側が協力した」との演劇サイドの説明あり。</li> </ul>
育成	人材育成(指導者、後継者等)	写真教室を開催し、写真技術の向上に努めます。 ※会期中(7/21・土/倉吉未来中心)で開催	達成	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間中にこのような教室を開いたのは、後継者育成につながり大変良かった。</li> <li>よりオープンな催しにする姿勢が見られた。</li> <li>写真愛好人口の拡大につながる企画。</li> <li>年間を通じて各会場で定期でやったら。</li> </ul>
総括			100.0%	53.3%	

## 【成果】

- ・県内の主要な写真愛好家の団体(東部7、中部5、西部8)が一堂に会した「合同写真展」。一度に各団体の活動ぶりが分かる、メンバーらの作品が鑑賞できる、という点では、評価委員もおおむね好意的な評価だった。計212点に及ぶ作品のレベルもかなり高く、砂丘や大山、白壁土蔵などの地域性を活かしたものから、中近東など海外に材を求めたものまで、撮影対象や作風は多岐にわたる。
- ・写真のキャプションが団体ごとにまちまちだったり、各団体の横顔や活動ぶりが分かる説明文が欲しかったなど、来場者に対する案内やサービスで不満の声もあったが、会場(倉吉博物館)も「ガラス越しの作品が見にくい」などの注文はあったものの、広さや展示方法について不備を指摘する声はなかった。
- ・写真技術の向上を目的に、会期中に開催した一般市民も参加できる写真教室の企画もよかった。
- ・他ジャンルとの連携や協力については、「演劇との相互チラシ、ポスターでの紹介の連携以外見当たらなかった」というのが大半の評価委員の見方で、会期中は気が付かなかったが、後ほど、演劇のスチール写真を写真家連盟が協力して撮影してくれたことなどを、演劇関係者(評価委員の一人)が披露。このような異種連携は大いに歓迎したい。

## 【課題】

- ・各団体が日頃の活動ぶりを県民に見てもらう機会を提供するのならば、それは連盟の定期的な合同展覧会としてやればいいのか、という考え方もある。県の補助事業として取り組むからには取り組みを共同してやるような姿勢があつてしかるべきでは、という評価委員の中からの指摘はそれなりに説得力がある。また、そうした取り組みこそ、県内アマチュア写真家の連携や協力を生み出すものではないだろうか。各団体が出展した合同展の中に、団体の統一テーマや同じモチーフによる展示コーナーや企画を設けるのもいい。そうした工夫が、展覧会をより活性化し、出展者のモチベーションを高め、来場者を増やすことにつながるだろうか。
- ・これは他のジャンルの文化芸術団体にも言えよう。本来、自分たちが通常の活動で行う県大会や交流事業、発表会を県に事業申請し、補助を受ける状況になってはいないか。そこが独自性を持った、活力ある文化芸術祭典として育つことを阻害している要因ではないか、とも思う。
- ・キャプションの統一や団体の紹介文などはすぐできる改善点として、写真家連盟にお願いしたい。

### 第39回鳥取県演劇連盟公演「伯耆星、来る夜」(鳥取県演劇連盟)

平成24年7月15日(日)、16日(月・祝)、琴浦町赤碕コミュニティーセンター

#### 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝 発承と 見と	鳥取の文 化アイデ ンティテ ィの確立	鳥取県にちなんだ題材を作品に用い、文化アイデンティティの啓発に努めます。	概ね達成	概ね達成	古事記編纂1300年にちなんで伯耆国を舞台にした物語で郷土の古代史を身近なものとして関心を引きつけた。タイムリーだった。そしてテーマを父と子の絆、子の成長、自立と現代にも通じるものにしたことも評価できる。文化アイデンティティを追求し、目標を概ね達成した。
創造	質の高い 文化芸術 活動	質の高い新作の創造活動に取り組みます。	一部達成	一部達成	観客アンケートの満足度は高く感想でも評価が高かったが、やや身内受けの感がある。質が高かったと問われれば、やや疑問も残る。セリフや展開に冗漫な部分を感じられ、もう少し脚本を練り上げてほしかった。演技力にも、やや力不足などところがあった。しかし新作創造への意欲は大いに評価できる。設定の背景が壮大なので新鮮だった。生きる目標を見出すような内容だった。
拡大	県民の文 化活動支 援	県民を対象とした入門ワークショップを開催し、県民が体験を通じて学ぶ機会を提供します。	達成	未評価	ワークショップそのものは見ていないが、報告書・新聞報道などによれば、参加者も予定以上で参加した人の感想も満足度が高い。これまで、こうした企画がなかっただけに、その取り組みは評価できる。特に、十代・二十代の若い人たちが多く参加していたという報告は、育成の面での成果として評価したい。また運営面でも定員オーバーを2回に分けて行うなど柔軟な対応も評価したい。このワークショップは見ていないので達成度は未評価としたが、正直いうと「達成」と評価したかった。
	県民への 鑑賞機会 の拡大	演劇公演がほとんど開かれない地域で公演を行い、身近な鑑賞機会を提供します。	達成	達成	東伯郡内での演劇公演は初めて。そういう意味では良い鑑賞機会となったと思う。県中部からの観客が多いので琴浦町在住者もかなり含まれていたのではないかと推測できる。会場も中規模で親しみやすかった。
		異なる文化芸術ジャンルの団体との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	達成	概ね達成	鳥取県写真家連盟合同展と連携したことは評価できる。しかし、チラシ、パンフレットなどに案内が掲載されただけでそれ以外にはほとんど何もなかった。「なぜ連携しているのか」という意義が分からない。例えば今回のようにチラシ、パンフレットに写真素材が使われているのなら、せめて写真家連盟提供の写真を載せるなどしてほしかった。
		広く県民への周知を図るため、様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	概ね達成	概ね達成	チラシ、ポスターのほか新聞、ラジオ、ホームページ、町内放送などによって公演が紹介された。写真家連盟との連携もその一環だ。一部にはポスターもチラシもあまり見かけなかったという声もあったが多岐にわたる媒体を利用している。チラシにもう少しストーリーの紹介を入れても良かったのでは。

育成	人材育成 (指導者、 後継者等)	出演者の6割以上を20歳代以下とし、次代の担い手となる若手活動者の育成を図ります。	達成	概ね達成	若い出演者の伸び伸びとした演技がころよかった。鑑賞者もほかの催しに比べて若い人が目立ち、次世代への期待が膨らむ。身内受けで満足しないようにしっかりと演技技術を学んでほしい。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	中学生以下の鑑賞は無料とします。	達成	概ね達成	中学生以下、障がい者を無料として鑑賞機会を提供したことは評価できる。ただ、子ども、障がい者の人数はそれほど多くはなかった。
総括			83.3%	66.7%	

## 【成果】

- ・出演者のほとんどが若者でフレッシュな息吹が感じられた。古事記1300年で話題になっている今、古事記を取り上げたのはタイムリーだった。父子の絆、子どもの成長と自立といった現代的なテーマを古事記にかぶせて作り上げたのも新鮮だった。ユーモアのある部分とシリアスな部分とのメリハリがきいていて、大人から子どもまで楽しめる演劇になっていた。4劇団の合同公演であったことが観客動員につながったともいえる。合同公演はこれで39回目ということだが、長期間継続できるというのは相互の信頼や協力があったのことと思われ、今後の活動拡大も期待したい。
- ・舞台終了後に各役柄の神様についての説明があり、見ている側も大いに納得できたし、七夕にちなんで願いごとを短冊に書いてもらう試みなどスタッフの気配りが感じられた。また、アンケートの呼びかけがなされていたのは回収率のアップにつながったと思う。アンケートを書いている人の表情は明るく満足そうだった。
- ・チケットの半券で抽選会があり当たる景品が公演内容にも即した清酒「稲田姫」だった。

## 【課題】

- ・会場が分かりにくかったという声が多かった。なじみのない会場だけにもう少しくわしい地図にするとか会場玄関に立て看板を立てるとか場所のPRをもっと積極的にして欲しかった。また地元以外の人にとっては交通機関での会場までのアクセスが悪く、鑑賞条件としてはあまりいいとは言えなかったが、赤碕地区での公演は意義あるものだった。
- ・舞台セットなしで1時間40分を演じるというのは、かなりの演技力と脚本力が必要とされる。そういう意味ではやや力不足も否めない。台詞の冗漫さ、出演者の演技不足を感じる。宇宙へのロマンと神話を絡めて父子の絆、愛情をテーマとした物語ということで面白くなるのではないかと期待したが、前半がやや冗漫であり、脚本の練り上げが必要ではないだろうか。
- ・ロビー付近の雰囲気作りを。少し殺風景。今回だったら、古事記やほうき星について分りやすそうな資料を置いておくとか。もぎりの人が浴衣を着てみるとか。
- ・身内受けに満足せず、さらに演技を磨いてほしい。
- ・若い人(特に女性)の鑑賞者の姿を多く見かけた。出演者、関係者のつながり、ロコミの効果だろうか。ふだんは若い方たちが活躍する姿をなかなか見ることはないが、今回の催しでは出演者も観客も若い人が多く活気を感じた。高齢者の多い赤碕地区の公演も、意義あるものだったと思う。住民の方たちは刺激を受けたにちがいない。
- ・せっかく写真展との連携だったので、劇中に写真家連盟会員が写した写真が放映されるとか、ロビーでミニギャラリーをするとか、逆に写真展ではギャラリートークに劇団員が応援に駆け付けるとか、何か一工夫ほしかった。

長月をどり(鳥取県日本舞踊連合会)

平成24年9月29日(土)、鳥取市民会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承 見と	地域の伝 統芸能の 継承	子どもの伝統文化活動の発 表の場を設けます。(育成事 業・次代を担う子どもの作 品)	達成	達成	小中高校生の会員だけではなく、体験教 室を行ない、そこにきた子どもたちの発 表の場もあり、多くの子どもが本番に立 つ機会があったのが良かった。
創造	質の高い 文化芸術 活動	若い人のための新しい音と 動きの創作舞踊を作ります。 (海響・夢玄作曲)(千鳥 の曲・箏曲)	達成	達成	他の踊りとは異なる若者らしい踊りで、会 場の様子からも好評であったと感じた。こ のような若い流れを積極的に取り入れて いくべきである。
	県民の参 画支援	子どもの参加を募るための 無料体験教室を設け、発表 の場を設けます。(体験教 室)	達成	達成	実際に体験教室に参加した子どもたちの 発表の場があり、子どもたちが一所懸命 取り組んでいると感じられた。無料で体 験でき、また体験した成果を発表できる 場があることは子どもにとって良い経験 になるのではないかと感じた。
拡大	県民の文 化活動支 援	日本舞踊入門のためのワー クショップを取り入れます。 (おどりおもしろ話)	達成	概ね達成	参加型のワークショップであったが、日本 舞踊未経験者でも気楽に楽しめる内容で あった。鑑賞するだけではなく、このよ うに経験してみる場があると良い。
		高齢者の指導と発表の場を 設け、文化活動への参画拡 大を図ります。(高齢者の指 導と発表の場)	達成	達成	高齢者の出演者が多く、日ごろの努力を 発表する場になっていた。高齢者の文化 活動への参画拡大に貢献していると感じ た。
	県民への 鑑賞機会 の拡大	学生間同志の勧誘に取り組 むなど、若い人への広報に 努めます。	一部達成	未達成	会場の様子やアンケート結果を見る限 り、若者の鑑賞者はほとんどいなかっ た。若者鑑賞者の拡大をするには、学生 間同志の勧誘に頼るのではなく、連合会 としての働きかけが必要である。
		公演中、会場内の私語、ドア の開閉等、係員等の配置に 努め、より良い環境づくりに 取り組み、公演当日は円滑 な会場運営に努めます。	未達成	未達成	私語が多く、鑑賞に適した環境ではな かった。アナウンスでの呼びかけがあっ たが改善されなかったため、工夫が必要 である。また、アナウンスの声が少し小さ く感じた。
育成	人材育成 (指導者、 後継者等)	次世代を担う子ども達の発 表の場を提供します。(体験 教室・育成事業)	達成	達成	体験教室に参加した子どもや、小中高校 生の会員といった多くの子の発表の場と なっていた。
総括			79.2%	70.8%	

## 【成果】

- ・鑑賞者は年配の方が多く、年配の方に喜んでいただける事業が提供できたのではないかと。若い方も楽しんでいただけるよう、創作舞踊を発表するという試みは評価でき、会場の反応も良かった。
- ・参加型ワークショップで日本舞踊を体験できる場を設けることで、日本舞踊の楽しさを会場の方に感じていただける工夫をされていたと感じた。無料で鑑賞できる点は評価できる。

## 【課題】

- ・会場やアンケート結果からみて、観客層が高齢(特に女性)に偏っていたので、年配の方のための事業になっただけだと感じた。若い世代の鑑賞者を増やしていくことが課題である。次世代につなげるため、裾野の拡大を期待したい。
- ・初めて鑑賞する人にはどのような方が踊っておられるのかわからないため、会場入り口等に出演者の紹介のパネルを設置するなどして、より鑑賞者が楽しめるように工夫していただきたい。日本舞踊という敷居の高いイメージを持つ方もいらっしゃると思うので、定期的に目に触れる機会を設けていくことが課題である。
- ・開演中の鑑賞者の私語や席移動、出入りが目立ったため観客のマナーを向上していくことが必要である。そのために会場スタッフを教育するなどの工夫をしていただきたい。
- ・アンケートにもあったが、上演時間が長く感じた。全部見るお客様が、どの程度の時間であれば楽しんでみることができるかを考える必要がある。

## 【要改善事項】

アンケートの回収率の向上に取り組むこと。

# 第19回鳥取県シティバンドフェスティバル(鳥取県吹奏楽連盟)

平成24年9月30日(日)、米子市文化ホール

## 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	質の高い文化芸術活動	プロと連携・協働し、ステージ及び客席を盛り上げる演出を行うなど、事業の質の向上に努めます。	概ね達成	概ね達成	プロのトロンボーンバンドとの合同演奏は成功だった。単にプロ奏者との共演に終わらず、最前列に花道も使って客席に最も近い位置でトロンボーンが23人も整列しての演奏は圧巻だった。プロとアマとのコラボの成果は十分あった。ゲストの効果があった。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民への周知を図るため、地元情報誌やラジオCMなど、様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	一部達成	一部達成	地元情報誌やラジオCM等多様な広報が試みられたが、それらが必ずしも集客には結びつかなかった。台風の影響もあったかもしれないが、集客には、媒体以前に個人のクチコミが重要ではないか。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	スムーズな舞台転換、来場者への案内など、公演当日は円滑な会場運営を行うよう工夫します。	概ね達成	概ね達成	舞台転換はスムーズで、取り組み目標は概ね達成した。舞台転換の時間を利用しての各団体へのインタビューも良い方法であった。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもが鑑賞しやすいような料金設定を行います。(中、高校生は半額。小学生以下無料)	達成	概ね達成	料金設定は妥当な金額で鑑賞機会は提供できたが、集客に工夫が必要。中、高校生の鑑賞者が少なかった。中・高校の吹奏楽部との連携の追求はなされたのであろうか。
<b>総 括</b>			<b>66.7%</b>	<b>58.3%</b>	

## 【成果】

- ・19回を重ねて県内の吹奏楽団の日頃の活動の成果を発表する場として定着し、吹奏楽の魅力を伝える場としても一定の役割を果たしているように思われる。
- ・ゲストとのコラボは聴きごたえがあり、ゲストの効果は十分にあった。
- ・曲目の選定や出入りの合間のトークなど、時間を無駄にせず、観客を飽きさせない工夫がなされていた。
- ・中学・高校で吹奏楽をしている生徒は多く、彼らが社会に出てからも音楽活動を続けられる受け皿として、シティバンドの存在は大きい。

## 【課題】

- ・入場者数が目標の約5割であり、広報活動・集客への工夫・努力が必要である。参加者が口コミなどで集客する努力もさらに強化してほしい。
- ・県内で活動している吹奏楽団の発表の機会であり交流の場でもあり時間を要することは理解できるが、鑑賞者にとっては時間がやや長過ぎる。各団体が一堂に会して演奏することにどのような意義があるのか、今一度検討してほしい。
- ・アンケートの回収率を高める努力をしてほしい。

**20周年記念コンサート「和太鼓ふるさとの響2012」(鳥取県和太鼓連盟)**  
**平成24年10月6日(土)、鳥取市民会館**

**文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))**

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	子どもの伝統芸能活動団体の発表の場を設けます。	達成	概ね達成	地域の熱心な指導者によって、子供達へ伝統的な太鼓や創作活動が伝えられている。今後より一層の充実・裾野を拡大する活動を望みたい。
	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県民としての誇りと自信に繋がるような事業を推進します。	概ね達成	概ね達成	地域によっては、太鼓がその土地に根付き、象徴的なリズムになっている場合もある。「倉吉打吹太鼓」のように県全体で更に内外にPRを。
創造	質の高い文化芸術活動	異なる文化芸術ジャンルの団体(鳥取城北高校書道部、浜村ミュージックメイツポコアポコ、米子がいな万灯、せきがねさいとりさし)との連携等を通じ、質の高い作品を提供します。	達成	達成	書道部との新しい試みは高く評価したい。「さいとりさし」等、特異な伝統芸能は、ぜひ県外にもアピールできる出物として大切に継承していただきたい。次年度以降もジャンルを問わず新しい流れを取り入れていただきたい。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	異なる文化芸術ジャンルの団体(鳥取城北高校書道部、浜村ミュージックメイツポコアポコ、米子がいな万灯、せきがねさいとりさし)、との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	概ね達成	概ね達成	上記「創造」の項目にも通じるが、出演者と鑑賞者の”輪”が、もっと広く強く結ばれることを切望したい。太鼓のリズムは胎内にいるときから人間に共通する心拍のリズムである。(特に日本人には馴染みが深い)その根源的な魅力を、更に高めていただきたい。また今後、他の音楽団体との連携も視野にした活動を望みたい。
		広く県民への周知を図るため、ポスター・チラシのほか、新聞折込やCATVでの広告CMなど、様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	達成	概ね達成	20周年記念の割には、動員力は今一步足らず。対外的なPR不足は否めない。ポスター・チラシ等一般で目にするのがなかったように思える。
		手頃な料金で鑑賞できるよう広告料や寄付金等の獲得に努力します。	概ね達成	概ね達成	広告料等で、地域支援への努力は行われている。入場無料で楽しめるのは評価できる。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	事業全体をコーディネートする指導者の育成を行います。	達成	概ね達成	指導者・裏方の育成が急務か?照明灯にも工夫を凝らし、もっとメリハリがあってもよいのではないかな?
		公演当日は適切にスタッフを配置するとともに、県連団体が一致協力して、円滑な会場運営を行うよう工夫します。	達成	概ね達成	連盟の一致した努力は好ましい。更なるエネルギーアップを期待したい。アンケート回収等、スタッフの教育を望む。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもが鑑賞しやすいような料金設定を行います。	達成	達成	入場無料なので、達成。
<b>総 括</b>			<b>88.9%</b>	<b>74.1%</b>	

## 【成果】

- ・日本人の根源的なリズムである和太鼓が、県内各地でも盛んなことは喜ばしい。指導者の地道な指導で、子供達が育成されていることも頼もしい。
- ・和太鼓というと男性演奏者の荒々しい・力強いものと想像しがちだが、女性演奏者により華やかな部分も見せられたのではないかな。
- ・書道部との試みは、新しい切り口で新鮮さを覚えた。

## 【課題】

- ・和太鼓に求められるのは、豊かな風土色・躍動感。熱気は感じられたが、まだ発展途上であるのは否めない。演奏自体もだが、ビジュアル的な部分の更なる向上を望む。
- ・入場者が目標の8割程度だった点を考えると、もっと地道なPR活動を。
- ・演奏人口を増やすため、県内にも和太鼓に直接触れる・また演奏できるスペースの確保が必要ではないか？（興味がある人がいても、普段まず触れることができないので）
- ・他の事業に比べ、アンケート回収率が低いように思える。今後の事業に反映させるため、一般の入場者の「生の声」を大事にしていきたい。

音楽日和 ライフフェスティバル鳥取 Vol. 14(鳥取音楽座)

平成24年10月8日(月)、とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と 発見と	鳥取の文化アイデンティティの確立	今年で14回目。鳥取の秋の風物詩として長期の維持を望んでいる。又、ミュージシャンにはあこがれのステージとしたい。	概ね達成	未達成	当初2日間の日程だったが、1日の日程で開催された。出演者集めの苦労は理解するが、“出たい”ステージへとしての取り組みが弱かったのでは。「鳥取の文化アイデンティティ」と言えるほどの内容はない。
創造	県民の参画支援	出演者を全県に公募で呼びかけ、広く県民が文化芸術活動に携わる機会を提供します。	概ね達成	未達成	出演者が全県から集まったとは思えない。もっと多くのアマチュアミュージシャンがいる
拡大	県民の文化活動支援	イベントに参加していただくことで、ジャンルやレベルの違いのある参加者同士の鑑賞、交流を通して、各団体の今後の活動の活性化を図ります。	概ね達成	一部達成	音楽ジャンルの違い、レベル差などを超えて交流はみられたが、もっと工夫が必要。
	県民への鑑賞機会の拡大	ポスター、フライヤーの他新聞、ラジオ等で広報する	一部達成	未達成	毎年のことながら、観客のほとんどは身内、関係者、家族と思われる。広報活動を見直すべき
育成	人材育成(指導者、後継者等)	準備の段階(企画、広報等)に応じた準備会を開催するなど、初心者の方でもイベント制作スタッフとして参加しやすい工夫を通して、運営スタッフの育成を図ります。	達成	概ね達成	運営スタッフはこなれてスムーズな運営がされている。若者の意見を取り入れたものになっているのか疑問もある。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	ヤングミュージックフェスティバル(20歳以下のコンテスト)の出演者の中から2~3組に出演していただき、若い世代にも鑑賞機会の提供を図ります。	達成	一部達成	YMBからのバンド出演はいい取り組み。音楽日和に出演したいという高校生たちの意欲をそがないために、コンサートのレベル、運営を維持してほしい。技術的なアドバイスが出来る体制がほしい。
総括			72.2%	22.2%	

## 【成果】

連続開催していることが最大の成果。YMB選出バンドの出演も意義がある。県内アマチュアミュージシャンの目標のステージにしてほしい。実行委員会方式で企画・運営を行い、当日の受付、会場などのスタッフを出演者同士が担当して、自律的な運営ができた。

## 【課題】

・出演者の減少、日程の縮小は大きな課題を残した。出演者減少の原因を明確にしきちんとした対応をとるべきだろう。県内にはさまざまなジャンルでアマチュアバンドが活躍している。いろんな形のコンサートも開かれており、このコンサートの特徴を明確にしたステージを作らないと、今後ますます出演者にとって魅力がなくなってしまう。

・一つの案としては、全バンド同じに時間配分をするのではなく、初心者とかレベルに応じて時間、曲数を変えるとか、ゲストバンドを呼ぶとか。(ゲストはなにも中央から呼ぶだけでなく、県内で活躍するバンドをゲストとしてもいい)

・単なる出演の機会作りだけで終わらせてはいけない。そういう役割を持った運営を考えてほしい。

RAKUGOPERAこうもり(鳥取オペラ協会)

平成24年10月7日(日)、倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	質の高い文化芸術活動	県内のオペラ活動のトップ奏者を集め、質の高い公演を提供する	達成	概ね達成	オーディションで、トップクラスの歌手が選出されたこともあり、オーケストラ共々、質の高い公演となった。一部に歌詞が聞き取りにくい場面もあり、個人レベルでは差が感じられる。オペラ協会としては14回目の公演となり、総体的には確実にレベルアップしている。
		落語とオペラを合体させた新しいオペラ公演を実施する	達成	概ね達成	落語が道案内となって、舞台と観客を結びつける演出は、概ね好意的に受け入れられた。課題はあるが、新しいオペラのスタイルとして、今後も期待できる。
		韓国江原道音楽協会との共演でレベルアップを図る	達成	概ね達成	韓国のゲスト歌手の歌唱力は素晴らしく、聞き応えがあった。ただし、せっかくの共演を、演出で生かしていなかった。
	県民の参画支援	ボランティアスタッフを募集し、県民の参加を図る	一部達成	未評価	募集形態は確認できないが、当日、会場でボランティアとして活躍する若い人たちの姿が見られた。
拡大	県民の文化活動支援	ガラ形式をとり、オペラの素晴らしさ、楽しさを伝え、オペラへの誘いを図る	達成	概ね達成	ガラ形式で聞かせどころを凝縮させて、オペラの楽しさを伝える工夫がなされていた。
	県民への鑑賞機会の拡大	ガラコンサートの司会に、落語家を起用することで興味を持ってもらい、鑑賞者の拡大を図る	達成	達成	落語家の説明によって、ストーリー展開が理解しやすく、リラックスしながら鑑賞できた。新しい観客の取り込みができた。
		日曜日昼間公演で、鑑賞参加者の拡大を図る	達成	概ね達成	幅広い年齢層の観客があったこと、また、遠方からも足を運んでいることから、休日の昼間公演の効果が出ている。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	世代交代を見定め、アートマネージャーを置き、育成を図る	概ね達成	未評価	外部から見えるものではないが、世代交代を視野に入れた、数年に渡る取り組みが行なわれている。今後に期待したい。
総括			87.5%	72.2%	

## 【成果】

- ・鑑賞の機会の少ないオペラ公演を、地元主導の形で、廉価で県民に提供していることの意義は大きい。
- ・RAKUGOPERAという新しい試みで、新たな観客、より多くの人々の関心を引き寄せることができた。
- ・日曜日昼間公演のおかげで、幅広い年齢層と全県下からの集客を図り、県民鑑賞に貢献している。
- ・政治的に難しい時期に、韓国との文化交流を成功させた意義は大きい。

## 【課題】

- ・アンケートの回収場所が、分かりにくかった。アンケート回収率が5.4%と低いので、回収率のアップが課題。
- ・落語の解説は面白かったが、やや前に出すぎているのが気になった。
- ・県民参画、鑑賞者の拡大については、ある程度の成果があったが、10歳代の鑑賞者がゼロだったことが課題に残る。
- ・歌唱は良かったが、演技に力不足が感じられた。
- ・オペラファンには自明の決まり事も、一般の鑑賞者には分かりにくい。鑑賞者の目線に立った舞台づくりを望みたい。
- ・観客誘導が、上手く行なわれていなかった。

## 【要改善事項】

アンケートの回収率の向上に取り組むこと。

# 第36回鳥取県川柳大会(鳥取県川柳作家協会)

平成24年10月14日(日)、さざんか会館

## 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と 発見と	鳥取の文化アイデンティティの確立	国民文化祭を始め全国の大会での入賞作品を一覧できるコーナーを設置するなど、本県の文化アイデンティティを再確認する。	概ね達成	一部達成	全国大会の入賞者一覧を資料として配布。パネル展示とか入賞者の発表とかの工夫が必要
創造	質の高い文化芸術活動	全国的に有名な選者を招き、レベルの高い事業を展開する。	概ね達成	一部達成	選者を他県から招請するなどの工夫は見られたが、選者の紹介はなく、投句者はレベルを判断する材料がない
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	投句を行わない見学者は入場無料とするなど、川柳に少しでも興味のある方などが気軽に川柳に触れられるような工夫を行います。	概ね達成	未達成	見学者は無料に設定はしているが、見学者入場者はほとんどなく、どこまでPR、呼びかけをしたか、入場者があったかが達成の度合いを図るものさしとなる。
		尺八演奏を開会前にしていただくなど、異なるジャンルの団体との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	達成	一部達成	尺八演奏などイベントを盛り上げる工夫は見られたが、川柳結社に所属する人たちを対象にした催しだと思える。初心者や川柳を知らない人に足を運ばせる魅力ある工夫が必要。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	地域の小学校へ指導(5月29日宝木小学校・6月12日鹿野小学校 他)に行き、若年層の育成に努めます。	達成	一部達成	ジュニアの部の入選句など資料として配布。取り組みは見える
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	小中学生の参加を事前投句・当日投句ともに無料とし、子供たちに優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供します。	達成	一部達成	事前投句と友に、当日会場で親子、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に大会に参加し、楽しめるような内容にできれば理想
<b>総括</b>			<b>83.3%</b>	<b>27.8%</b>	

## 【成果】

- ・鳥取県川柳大会として36回目の開催であり、伝統が受け継がれていることはうれしいこと。披講など楽しく進められ、参加者は大会を楽しんでいる雰囲気が伝わってくる。
- ・鳥取県の川柳人口は、人口の割合でいうと多いほうで、県内各結社の活動も活発。文芸分野の発展のためにはさらに継続開催をすべき。

## 【課題】

- ・ほとんどの参加者がどこかの結社に所属している方。運営はスムーズだが、県外からの参加者も県外選者の関係者と見られる。
- ・参加者は投句料を含め2000円を支払って入場している。見学だけの入場も認めてはいるが、一般の人が気軽に参加して投句という訳にはいかないだろう。
- ・関係者の大会開催への努力には敬意を払うが、県内川柳愛好者がこぞって楽しめる大会になるよう取り組んでほしい。身内の事業という色合いが濃い。一般の人が気軽に来場できるような雰囲気ではない。
- ・会場にもう一工夫欲しい。(案内看板等がお粗末)
- ・20代～40代の方が参加したくなるようなPRを工夫すべき。これは川柳の魅力をその年代の人に知ってもらう工夫とも言える。

**2012鳥取県オーケストラ連盟演奏会鳥取公演(鳥取県オーケストラ連盟)**  
**平成24年10月14日(日)、とりぎん文化会館**

**文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))**

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	質の高い文化芸術活動	プロとして活躍する指揮者の指導により、質の高いオーケストラ演奏を目指します。	達成	達成	プロの指揮者によるレベルアップを図り、同じ指揮者に何年間か指導してもらっている成果が出てきている。
	県民の参画支援	県民のオーケストラへの参加を促し、県民が主体となってオーケストラの組織を目指します。	達成	達成	ほぼ県内の演奏者及びゆかりのある演奏家で固めた。
		チラシ・ポスターやテレビなどを通じ、県民に公演情報を効果的に伝え、多数来場いただけるように広報を工夫します。	一部達成	一部達成	広報には力を尽くしたが動員力アップには繋がらなかった。
拡大	県民の文化活動支援	コンサートの際にレクチャーなどを行うことで、音楽への理解度を深め、再度オーケストラ公演に行きたいと思えるようにします。	一部達成	一部達成	音楽の理解を深めるにはレクチャーがあった方が良かった。
		オーケストラの素晴らしさ、楽しさを演奏などを通じて伝え、演奏者を増やすなど、オーケストラ活動を活性化させます。	達成	概ね達成	団員の熱意はあるが、県民への魅力、動員力には今一步。ロビーでの楽器体験コーナーの試みは良いが、子どもの集まる工夫があれば。
	県民への鑑賞機会の拡大	チラシ・ポスター等に、指揮者やソリストの写真を掲載し、親しみを持っていただけるようにして、効果的な広報を行います。	達成	概ね達成	広報に工夫されたことは認めるが入場者数の拡大に結びつかないのが残念。プログラムは充実していた。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	団員自らが指導者として練習指揮を行うことで、人材育成につなげます。	達成	概ね達成	日ごろの練習が本番に現れる。そのための指導者が大切である。練習方法等は人材育成につながっているか評価者は確認できない。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	高校生以下の料金を割安で設定し、また、未就学児は無料とすることで、子ども連れの来場者が来やすいようにします。	達成	達成	未就学児の無料はいいが、マナー不足が鑑賞者の妨げになる。こどもの時からマナーを教えることも役目のひとつかも。
<b>総括</b>			<b>83.3%</b>	<b>70.8%</b>	

## 【成果】

- ・指揮者高野氏は現在も声楽のレッスンを受けるなど、すべての演奏の糧になるよう勉強されている。その高野氏を指揮者として何年間か指導していただいている成果として演奏内容が向上してきている。技術向上には同じ指揮者で、きめ細かい指導や団員との意思が通じ合うといった良い点がある。今後も高野氏の指導を受けて、更なる発展を望みます。
- ・団員の努力によって演奏は徐々に向上している。聴衆は「応援団」であり、好意的なアンケートの結果となっている。

## 【課題】

- ・大曲への挑戦も良いが選抜した室内楽のアンサンブルで精度を高めることも考えてみては。課題は県外へ通用する音楽になっているかということである。更なる努力を。そのために日常的な指導者の充実が望まれる。
- ・少年少女時代からの”音楽体験”のレベルアップが問われることにもなる。県オーケストラ連盟のレベルアップと言えども、学校教育のアート体験を豊かにすることなくして考えられない、ということである。
- ・鑑賞者動員の必要では、中・高校生の拡大への工夫が望まれる。
- ・子どもに開放するのは良いが、泣き声が漏れる乳幼児連れはどうであろうか。(託児室、親子室の利用を考えられる)オーケストラ連盟の演奏会と割り切って「親子体験」の場にするか、音楽空間の場としてレベルの追求を求めるのか、その中間を仮に探るにしても、いま一度議論して明確にする必要があるのではなかろうか。

## 第41回鳥取県短歌大会(鳥取県歌人会)

平成24年10月28日(日)、琴浦町生涯学習センター「まなびタウンとうはく」

### 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
拡大	県民の文化活動支援	広く県民から短歌を募集並びに優秀作品を表彰する合評会を開催し、短歌愛好者の拡大を通して、文化芸術活動の裾野拡大を図ります。	概ね達成	概ね達成	参加型の企画として面白い。参加者は刺激になると思う。 飛び込みの参加者やギャラリーが気楽に参加しやすいような工夫や配慮が欲しい。
	県民への鑑賞機会の拡大	短歌大会の開催案内、チラシ、ポスターを作成し、県内の学校、各種施設等に配布し、広報に努めます。	概ね達成	概ね達成	各学校など広い世代に広報されたと思う。 新聞記事でも、日本海新聞の10/27付生活面で開催告知が、11/17付文化面で同表彰式での入賞者一覧が掲載されていた。 中高生の応募が少ないのが残念。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	県外講師を招いた講演会を開催し、自己の研鑽を図る機会を提供します。	概ね達成	達成	良い講師選定である。話も面白く、短歌を作っていないものにも楽しめる内容だった。 しかしこれは人材育成というより県民への鑑賞機会の拡大ではないか。育成面では、20歳代~30歳代の活動者や鑑賞者が少ないように感じた。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	小中高校生から短歌を募集し、優秀作品を表彰する。	概ね達成	達成	子どもの頃に短歌に触れるきっかけとして、良い取組みだ。 小学校からは多くの短歌が寄せられていたが、中学・高校からは少ない。中学高校への働きかけが必要。
総括			66.7%	83.3%	

## 【成果】

- ・講演会や児童への短歌募集など、さまざまな取り組みにチャレンジし、実績を上げている。
- ・安定した運営と継続的な活動で、短歌の魅力を発信し続けているのは大きな成果である。この積み重ねが短歌愛好者を増やし、作られる作品(歌)の向上につながるのだろう。
- ・合評会は初めて拝見したのだが、印刷された作品を表彰式で拝見するだけでは分からないような作品も、会員の合評が一種の解説となり、「そういう見方もあるのか」と勉強になった。これはもっと多くの方に見ただくのがよい催しだと素直に感じた。
- ・表彰式には受賞した家族も出席し、ほほえましい光景が見られた。県外から招いた講師による講演もおもしろく、今年の小島ゆかり氏の話はとでも良かった。表彰式においても、小島氏も表彰役を務められ、会全体があたたかい雰囲気にも包まれていた。

## 【課題】

- ・全体の運営は、極めてスムーズかつ順調に行われていたのだが、唯一、表彰式でもたついた感があった。児童は、一般の表彰式を目にする経験も少なく、どういう導線で舞台上がり、どうすればよいか分からない。会員による事前の説明を行うとか、現場で担当者を設けて丁寧にサポートすると、子どもも困惑することなく、気持ちよく表彰状を受け取れると思う。
- ・子どもにとっては晴れの舞台。保護者はその姿を写真やビデオに収めたいだろう。表彰の瞬間などに保護者が写真撮影しやすいような演出(工夫)があれば、児童や保護者の印象もさらに良くなるのではないか。小さな事かもしれないが、それらは短歌および歌人会へのイメージアップにもつながると考える。
- ・合評会は、広く県民にオープンされている催しなのだが、会員と一般県民の区別が難しく、普段から結社に入っている人や短歌活動者でないと入りづらい雰囲気がある。
- ・気軽に参加しやすい環境を整えるため、受付の仕方や席の配置などを工夫し、はっきりとギャラリ一席を設けてはどうか。第一線の歌人と一緒に席を囲むのは、素人には気が引けるが、席が設けてあれば行きやすい。
- ・20歳代～30歳代の活動者や鑑賞者が少ないように感じた。その世代(後継者)をターゲットにした具体的な取り組みを模索してはいかがであろう。例えばだが、児童にからめて親子での応募など。児童の親世代(20～30歳代)の中には、潜在的な活動希望者もあるのではないか。
- ・全体的には素晴らしいのだが、入場者が少ないのは残念。いくら素晴らしくても156人では寂しい。県文化団体連合会の関係で、文芸系団体(短歌、俳句、川柳)によるごちやまぜ講座を開催するなど、歌の魅力を伝えるための努力を行っておられるのは承知しているが、さらなる裾野拡大に努めていただきたい。素晴らしい作品をより多くの県民に知っていただくために。
- ・中学・高校からの応募が少ない点については、やむを得ない面もあるが、質的にはどうかと思う作品まで冊子に掲載する必要があるだろうか、とする声もあることを付記しておく。

# ヤングピアニストコンサート2012(鳥取県ピアノ指導者協会)

平成24年11月11日(日)、鳥取市文化ホール

## 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	質の高い文化芸術活動	国際ジュニアコンクール優勝のゲストを招へいし、質の高い音楽を提供する。	達成	達成	同年代のゲスト演奏でレベルの高い演奏は、他の出演者により励みとなり目標にもなったと思う。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	新聞での広報、学校・音楽教育機関への広報に努める。	概ね達成	一部達成	街中でポスター、チラシ等を見かけた印象がなく、関係者のみへの広報だったのでは。一般へのPRの工夫が必要。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	次世代を担う子ども達に発表の場を提供する。	達成	概ね達成	県大会、中国大会への出演経験した子ども達の1年間の締めくくりの発表の場である発表場を定期的につくることで互いに切磋琢磨するよい機会である。
		タイムスケジュールを組み、スタッフの役割分担を徹底させることにより、公演当日の運営の円滑な進行を図る。	概ね達成	一部達成	事前の打ち合わせ等でほぼスムーズに運営されていたが、出演者の舞台周りの行動の指導が必要と思われる。客席の出入りが激しいので落ち着いて鑑賞できない。
		公演終了後、出演者、指導者、スタッフ等の参加による交流会を持ち、子ども同士、指導者同士の広い交流を図る。	達成	未評価	公演終了後の交流を持つのは良いことである。評価者は交流会に参加していないので評価不可能。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	ピアノを学んでいる子ども達や音楽教室にダイレクトメールを送り、広く、多くの子ども達へ鑑賞案内を出す。	概ね達成	概ね達成	子ども達への情報提供手段となる教室を通してのPRとなる指導者、関係者への個別アプローチするかどうかで動員が違うのであれば、ダイレクトメールを送ってお終いではなく、もう一押しが必要。
総括			83.3%	60.0%	

## 【成果】

- ・子ども達がお互いの演奏を励みとして、ゲストの演奏を目標とする、互いに切磋琢磨できる機会になっている。
- ・ピアノ指導者、生徒達の練習成果を発表し、互いの演奏を鑑賞することでモチベーションを高め合う良い機会となっている。演奏だけでなく、ステージや鑑賞時のマナーを学ぶうえでも良い企画である。
- ・地域の音楽文化活動を担う次世代の育成に貢献している。

## 【課題】

- ・昨年も指摘したが見せ方、聴かせ方の工夫次第で身内以外の鑑賞者を引き付けることのできるコンサートである。何がこの企画の胆かというと、子ども達の成長物語であろう。ピアノで表現するために指導者と一緒に何を努力し、結果はどうか、アピールして欲しい。例えばワークショップ形式を取り入れて、指導によって生徒の表現力が変わっていく過程を経験される演出も良いのではないか。今のままでは単なる発表会の域をいくらも出ない。関係者の観客が多いが、一般の鑑賞者へのPR拡大に工夫をして欲しい。
- ・アンケートの結果では、東・中・西部の鑑賞の差がある。年ごとの回り持ちになっているのが原因なのかも。

以上を踏まえ、以下の点を指摘したい。

内輪のイベントから脱却して、

- ・広く県民に向けて、アピールする内容に転換する。
- ・鑑賞者を開拓する。
- ・快適な鑑賞環境を提供する。

とりにん人形劇カーニバル イン こどもの国(とっとり人形劇連絡会)

平成24年11月11日(日)、こどもの国

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	紙芝居ネットワークが「いなばのしろうさぎ」の紙芝居を上演し、地域の歴史や伝統文化を取り上げ、継承する事業を展開します。	未達成	未達成	自己評価の通り、紙芝居ネットワークとの連絡調整ミスによる、上演演目の変更のため。
		「湖山長者」など地域に埋もれた文化資源等を掘り起こし、事業に活用します。	未達成	未達成	自己評価の通り、紙芝居ネットワークとの連絡調整ミスによる、上演演目の変更のため。
		「いなばのしろうさぎ」や「湖山長者」など地域にまつわる素材を題材にした紙芝居を上演します。	未達成	未達成	自己評価の通り、紙芝居ネットワークとの連絡調整ミスによる、上演演目の変更のため。
	鳥取の文化アイデンティティの確立	地域に根ざした題材を取り上げ、文化アイデンティティの確立に努めます。	未達成	未達成	自己評価の通り、紙芝居ネットワークとの連絡調整ミスによる、上演演目の変更のため。
		鳥取県民としての誇りと自信に繋がるような事業を推進します。	概ね達成	一部達成	事業自体はとても良いもの。さらに磨き上げていけば「誇りと自信」に繋がる事業になる。
		東・中・西部と県下を3年に1度、鳥取らしく几帳面に表現できるように努めます。	達成	概ね達成	毎年開催されている。「鳥取らしく几帳面に表現」とはどういうことでしょうか。
創造	質の高い文化芸術活動	質の向上を目指し、人形劇の定番「なかよし」の再演を通じて作品を練り上げます。	達成	達成	上演はなかったと思ったが、「ゆっくりくりくり」という演目に改称し、上演していたようだ。
		プロ劇団「よろず劇場とんがらし」との連携・協働により事業の質の向上に努めます。	達成	達成	上演前から上演後まで行き届いているプロの仕事は、終始学べるものだったと思う。前振りの司会をした学生も間近で見ることができたし、プログラムの一番最後だったので、他の出演者も観ることができていた。客も最高のエンターテイメントに満足している様子が見られた。
		異なる文化芸術ジャンルの団体(鳥取大学児童文化研究会)との連携等を通じ、質の高い作品を提供します。	達成	概ね達成	司会や工作コーナーを児童文化研究会の学生が担当していた。上演の合間に子どもとコミュニケーションをとったり、工作指導をしているので、子どもたちは、待ち時間も飽きることなく過ごせたと思う。

創造	県民の参画支援	鳥取砂丘こどもの国を会場にすることにより、文化活動への参加が少ない20～50歳代が文化芸術事業に参加するよう工夫をします。	達成	一部達成	・創造館入口に、靴が乱雑に投げ捨ててあり、文化活動参加以前の問題もあった。 ・20～30代の子育て世代だけでなく、孫に付き添う「育いっ育ばあ」世代も多かった。
		出演者やスタッフ、ボランティア等を公募し、広く県民が文化芸術事業に携わる機会を提供します。	達成	達成	東中西部それぞれから出演者があった。またスタッフの多くが児童文化研究会の学生ボランティアだった。ただし、イベントのため、学生のためにも訓練が必要。
		鑑賞だけでなく人形劇に参加できる場を取り入れます。	達成	一部達成	「ケロちゃんのマジックショー」「ふうさんとあそぼう」「ゆっくりくりくり」では、手遊びと一緒に動いたり、ゲームをしたりしていたが、劇に直接参加するものではなかった。
拡大	県民の文化活動支援	芸術入門のためのワークショップを開催する等県民が文化芸術に触れる機会を提供します。	達成	概ね達成	紙コップや紙皿など身近な素材で、あやつり人形など作るコーナーが設けられていた。
		新たに文化芸術活動を始めたい県民の方をサポートする仕組みや体制を作り、受付コーナーなどに相談に乗れる場を提供します。	概ね達成	一部達成	会場内では相談ブースは設けられていなかった。
		工作コーナーなどを設置し、人形劇遊びができるようにします。	達成	概ね達成	紙コップや紙皿など身近な素材で、あやつり人形など作っていた。作った人形でちょっとした寸劇をして、みんなで楽しむコーナーがあれば良いと思った。
	県民への鑑賞機会の拡大	室内という閉鎖空間だけではなく、オープンスペースで上演することにより、誰でも気軽に文化芸術に触れられるような工夫を行います。	概ね達成	一部達成	天候が悪かったため、全て室内での上演となったが、計画では「子どもの広場」で行われるものもあった。
		手頃な料金で鑑賞できるよう鳥取砂丘こどもの国からの委託金の確保に努力します。	達成	達成	観劇料は無料だった。大人のみ入園料500円だったが、手頃であるし、終了後もこどもの国内で遊んでいる様子もみられ、会場と主催者相互に効果があると思う。残念ながら、来場者が少ない。
		鳥取おやこ劇場など異なる文化芸術ジャンルの団体との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡大を図ります。	概ね達成	一部達成	おやこ劇場から当日のスタッフとして来てもらっていたようだ。当日スタッフだけでなく、イベント内で何か連携し、来場者数を増やすことにつなげられないか。

育 成	人材育成 (指導者、 後継者等)	鳥取大学児童文化研究会など連携し、若者が参画できる環境整備を進め、若者が主導となり、企画・参画する事業を展開します	達成	概ね達成	工作コーナーも主となって指導していた。司会を担当している人は、子どもたちが、劇に注目してくれるようにと、話す内容を工夫しているようだった。しかし、もう少しワークショップ等の訓練が必要。
		鳥取大学児童文化研究会など新人の発掘及び育成を行います。	達成	概ね達成	学生が企画段階から、どの程度一緒に活動しているかは不明だが、プロの演技に触れるなど、興味を持つ機会になっていると思う。
		各会場の責任者を配置し、公演当日は円滑な会場運営を行うよう工夫します。	達成	一部達成	イベントの開場から開園直前のあたりでの、誘導が不十分だったように思う。また、雨のため会場変更があったようだが、案内が分かりにくい。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	鳥取おやこ劇場や鳥取大学児童文化研究会など教育機関との連携を通じ、子どもたちに優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供します。	達成	概ね達成	鳥取おやこ劇場のスタッフや、ボランティアの学生が活躍していた。また、来場者も親子一緒に楽しんでいる様子だった。
		入場無料(大人のみ鳥取砂丘こどもの国の入園料がかかる)とし、子どもが鑑賞しやすいような料金設定を行います。	達成	達成	無料だった。
		子どもも一緒に事業を鑑賞できるような環境を整えます。	達成	達成	こどもの国で行うのは、劇を観るというメルヘンな世界が既に広がっているのでぴったりだと思う。
	総 括		77.8%	54.2%	

## 【成果】

- ・自分たちの成果の発表だけでなく、プロを呼ぶことは良いと思う。上演する上で何が必要なのかよくわかった。
- ・学生の活躍が目立っており、次世代の育成の機会にもつながっていると思う。
- ・雨天や体調不良など、予定通りにいかない点多かったと思うが、代役をたてるなどの対応をされていて良かった。

## 【課題】

- ・天候が悪かったこともあるが、来場者が少なかった(最初のプログラムでは30人程度の参加だった)。資料では、チラシを12,000枚も配布しているのに残念。時間と会場の組み合わせは、現場に行けば分かることなので、そのあたりはスリムにして、チラシのオモテ面をもっとにんぎょう劇らしいビジュアルに訴えるものにしてはどうかと思った。
- ・劇の雰囲気作りを工夫してはどうか。会場の関係もあるかもしれないが、そうぞう館での上演は、いつものおはなし会をしているような日常的な設備、雰囲気だったので、子どもたちもメリハリを感じなかったのでは。演者と近くて良いが、「ここから先は人形劇の世界」というワクワクを感じるセットにした方が良い。例えば、暗くして照明を当てる。パーテーションやパネルを黒布で統一するなど。
- ・司会の学生は本番までに、もう少し練習した方が良いと思う。「これからはじまるよー」というだけでなく、次にはじまるものへの期待感をあおるような内容を話してはどうか。
- ・アンケートの取り方について。会場の出入口付近である「こども大通り」で集めることによって、人通りはあるかもしれないが、天候が悪く、強風や低気温などを考えると、室内(そうぞう館)で集めた方が良かったのでは。また、アンケートを書くと、工作セットがもらえるという特典はあったが、その場所へ「アンケートをください」と言わないと用紙をもらうことができず、すぐに書けないので、書かない人が多いかもしれない。
- ・イベント開始直後、会場誘導する人がおらず、いつから会場に入って良いのか、くつ袋を使っても良いのか、客が迷って滞った。
- ・アンケート設置だけじゃない総合受付を設け、来場者へプログラムを渡したり、案内の声かけをし、アンケートも一緒に渡しておけばスムーズだと思う。

「ダンスの日」記念 ダンス交流会(鳥取県ボールルームダンス連盟)

平成24年11月23日(金・祝)、中山農村環境改善センター

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
創造	質の高い文化芸術活動	デモンストレーションに取り組むなど、ダンスの芸術性をアピールし、質の高い作品の提供に努めます。	一部達成	未達成	アマチュアの発表会の域を脱していない感じで、プロのデモンストレーションがあればもっと芸術性をアピールできたと思われる。
		初心者又は未経験者のための体験レッスンのコーナーを設け、県民が文化活動に触れる機会を提供します。	概ね達成	概ね達成	体験コーナーがあっただけでなく、その後のダンスタイムでも経験者が初心者を誘って時には教えながら踊り、ダンスの楽しさは伝わってきた。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	ダンス教室、サークル、公民館、小中学校、新聞社等の広報活動に努める。	概ね達成	一部達成	広報計画にウェブサイトがないなど、一般も対象としているというよりは、ダンス愛好者の集まりという印象が強い。
		ミニダンス講習を行い、レベルアップを図る。	達成	概ね達成	講習の内容が、ステップの新たな組み合わせであった。美しい姿勢や組み方など、質の向上につながる内容だと、よりレベルアップにつながるのではないと思われる。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	学習指導要領の改訂により今年度から中学の体育の授業でダンスが必修化されたことに伴い、県内の小中学校の先生方に参加を呼びかけ、人材育成を図る。	未達成	未達成	ダンス必修を機に、学校でダンスを広めようとするのは一つの考え方だが、そのことのためにダンスが必修になったわけではないことを心にとめおく必要がある。
		ジュニアのための演技発表の場を提供する。	概ね達成	達成	人数は少なかったが、練習の成果を一所懸命に発表していた。
総括			55.6%	44.4%	

## 【成果】

- ・未経験者にもボールルームダンスの楽しさを伝えることができていた。
- ・また、年齢の高い方々の楽しそうな姿が、ボールルームダンスのイメージアップにつながったと思われる。
- ・いつものレッスンで出会わない人達と楽しく交流できるなど、愛好者にとってよい集まりだった。

## 【課題】

- ・愛好者の集まりという感じが否めなく、初めて触れる者への配慮が足りない。
- ・体験だけでなく、観賞対象としても考えるなら、発表のレベルアップが必要。
- ・若年層の育成。
- ・アンケート集計の際、記述部分は抜粋にせず、特に改善につながる意見はきちんと書き留めること。

**日韓交流民踊の集い2012 ～心はひとつ おどりの輪～(鳥取県民踊指導者連盟)**  
**平成24年11月24日(土)・鳥取市民会館、25日(日)・とりぎん文化会館**

**文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))**

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と 再発見	地域の伝統芸能の継承	鳥取県の民踊をはじめ全国の民踊の伝統芸能を取り上げ、継承する事業を展開します。	達成	概ね達成	全国各地に古くから受け継がれているものが特色豊かに紹介されていた。
	鳥取の文化アイデンティティの確立	「日韓交流民踊のつどい2012」を通し、鳥取県民としての誇りと自信に繋がるような事業を推進します。	達成	概ね達成	鳥取県と江原道が継続的に行っている文化芸術交流の一環としてそれぞれが伝統文化を披露し、満員の観客が最後まで参加応援していた。
創造	質の高い文化芸術活動	質の高い作品となるよう事業実施前に研修等実施します。	達成	未評価	どのような研修をいつどこで行ったのか確認できない。
		海外の文化団体等との交流を通じ、質の高い作品を提供します。	達成	概ね達成	韓国から選りすぐりの踊り手が来日しており、親善のみではないレベルでの文化芸術交流ができていた。
拡大	県民の文化活動支援	芸術入門のための研修会(11月25日)開催し県民が文化芸術に触れる機会を提供します。	達成	一部達成	一般の参加が少なかったのは、PR不足である。誰でも気軽に参加するためには、料金や服装等についても、ポスターやチラシに掲載すべきである。
	県民への鑑賞機会の拡大	障がい者や高齢者、子供のいらっしゃる方でも気軽に鑑賞できる環境作り(障がい者の観覧席等)に努めます。	概ね達成	概ね達成	案内スタッフが多くて、丁寧に対応していた。
		観客を交えて一緒に踊る取り組みをし、誰でも気軽に文化芸術に触れられるような工夫を行ないます。	達成	未達成	観客に小さなチーフをわたして振ってもらうことが、「一緒に踊った」といえるかどうか、疑問である。
		入場料が無料で鑑賞できるようにしているので、広告料や寄付金等の獲得に努力します。	概ね達成	一部達成	入場無料というのは実現されていたが、広告や協賛について確認しようがない。

育成	人材育成 (指導者、 後継者等)	活動者に対して、その習熟 度に応じた研修を行ないま す。	達成	未評価	いつどこでどのような研修を実施したの か確認できない。
		日韓交流事業を通して、新 人の育成に努めます。	達成	未評価	若手の会員を任務等に起用したと自己 評価にあるが、その詳細が確認できず、 評価しようがない。
	子どもた ちへの鑑 賞機会の 提供	子どもと一緒に事業を鑑賞 と体験(25日)できるよう工夫 します。	一部達成	未達成	客席であまり子どもの姿を見かけなかつ たし、体験にも参加者はおらず、若年層 へのPR不足と思われる。
<b>総 括</b>			<b>87.9%</b>	<b>41.7%</b>	

### 【成果】

- ・日韓の関係が心配される情勢の中で、お互いの民族性を表す民謡によって交流することができたことの意義は大きい。
- ・鳥取の代表的民謡の一つである傘踊りの歴史を、実際の踊りと照らし合わせて観客に紹介することができた。
- ・司会進行がスムーズで来場者はじっくり鑑賞でき、このような発表の催しにこなれている印象を受けた。

### 【課題】

- ・事業を実施するにあたっての、適切な目標設定。
- ・無料である必要があるのか。
- ・鳥取県民謡連合会との連携

### 【要改善事項】

ポスター、チラシ、プログラム等印刷物には協賛や助成者及び助成事業名を明記すること。

鳥取県三流合同謡曲仕舞大会(鳥取県謡曲連合会)

平成24年11月24日(土)、倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と見と	地域の伝統芸能の継承	異なる流派による合同仕舞大会の開催を通して、互いに刺激を与え合うとともに、伝統芸能のすばらしさを広く伝え、伝統芸能の継承の機運を高めます。	概ね達成	一部達成	見ている人があまりに少なく、参加者が他流派の演技を鑑賞しているとは思えなかった。一般の人に見せる舞台になっているとは言えない。
		子供の発表の場の提供	概ね達成	一部達成	出番が少なく、出ている子どもに「やらされている」感じがみえる。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	伝統芸能(能楽)に関する資料(能面等)を展示するなど、能楽に興味を持ってもらえるような工夫を行います。	概ね達成	概ね達成	ふだん見る機会のない能面や扇の展示はよかった。案内役がいなのが残念だった。
		上演内容の解説、説明等のプリントを作成、配布することで、能楽についての理解、関心を深めてもらい、さらなる鑑賞者の拡大に努めます。	未達成	未達成	演目についての簡単なプリントがあったが、あれでは一般の人は理解できないと思う。より分かりやすい解説が望まれる。プログラムも不足していた。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	専門家の講師を招いた研修会の実施により、技術の交流及び能楽の一層の普及を図ります。	一部達成	一部達成	定期的に研修会を行っている聞いたが、それがどのように舞台に反映しているのかは分からない。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	会員が小中学校に出向いて能楽の話を行うとともに、各学校に直接案内を出すなど、多くの子ども達の鑑賞につながるよう努めます。	一部達成	未達成	三校の小学校へ出向き、公演をしたという話を聞いたが、当日は子どもの姿はなく、努力はされているのかしれないが、成果に結びついていない。
総括			44.4%	27.8%	

## 【成果】

- ・能楽、及びそれに付随する謡曲・仕舞は、日本の優れた伝統芸能である。歌舞伎が現代でも盛んなのに比べ、能楽が一部の人の楽しみになってしまったのは寂しい。それだけに、三流が合同で公演するのは、県民に能楽の伝統を知ってもらうよい機会だと思う。
- ・わずかではあるが、子どもの出演もあり、小学校への出張公演もなされているのは、評価できる点である。

## 【課題】

- ・一番の課題は集客だろう。見ている人がほとんどおらず、出演者すら見ていない。これでは合同公演の意味がないと思う。また観客への説明が不足しており、一般の人が見たいと思える舞台ではない。このままでは、県の支援を受けた事業として残っていけるかどうか、正直不安に思える。
- ・入り口に看板を置いたり、受付に人を置くなどして、会場の雰囲気づくりが必要である。一般の人にも分かるような解説プリント、あるいは舞台上での解説があったらよいと思う。他の伝統芸能分野では、ワークショップを行うなどの例もある。技術の上手い・下手はなかなか分からないところであり、謡曲・仕舞の見所や面白さを伝える努力がほしい。
- ・人材育成、とくに後継者育成に関しても不安がある。まずは観客に見てもらうことで、レベルが上がり、人材も育つと思うので、学校や一般の人に働きかける活動をしてもらいたい。
- ・舞台・運営にかんして、観客目線での改善を望みたい。

## 【要改善事項】

- ・会場入り口等に看板を設置すること。
- ・受付に人を配置すること。
- ・出演者にも事業鑑賞を促すこと。

第10回鳥取県民謡まつり(鳥取県民謡連合会)

平成24年11月25日(日)、鳥取市民会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	2, 3世代混成による発表を通して、伝統芸能の継承を図ります。	概ね達成	概ね達成	幾つかの演目で実施されていた、見ただけでは分かりにくい場合もあるが、プログラムに子供・小四等記載されており、世代を超えての演技だということが伝わった。今後更なる子供建ちの自発的な参加を望みたい。
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	廃れ埋もれた地域の民謡を、その地域の団体と協力して発表することで、再発見につなげます。	達成	概ね達成	このイベントが地域の人だけではなく、より多くの人に知ってもらい機会となり、再発見に繋がっていると思う。更なる強化を図っていただきたい。
	鳥取の文化アイデンティティの確立	郷土民謡を中心に発表し、観客に感動と共感を呼び起こし、県民の誇りと自信に繋げる。	達成	概ね達成	一部は全ての演目が生演奏で、確かに地域の人々が伝承してきた民謡なのだと思う。馴染みのあるものから初めて耳にするものもあり、これだけ多くのものが継がれているのは、まさに地域の宝である。
創造	質の高い文化芸術活動	プロとして活動している会長の総指導・コーディネートにより、各団体が連携して質の高い舞台を目指す。	達成	一部達成	運営自体は特に問題はないように思えたが、問題は上演時間である。チラシに謳っている時間より40分も長く、入場者の都合を考えていないのではないかと。演目数だけみても2時間で終わるとは思えない内容だったので、その辺の入場者への考慮・フォローをしっかりと行うべきである。
		韓国の団体を招き、共演することで、それぞれの文化の相違を楽しめる質の高い内容とします。	達成	概ね達成	二部構成の第二部で幾つかのプログラムが設けられており、見応えのある内容だった。文化の相違は分かりやすかった。今後も文化交流を継続していただきたい。
	県民の参画支援	スタッフをアルバイト等で参画してもらい、県民に文化活動に触れる機会を提供します。	一部達成	一部達成	スタッフの募集をどのようにしたのか？公募ではなかったと思うが、関係者の身内等だけであれば、目標達成にはほど遠い。

拡大	県民の文化活動支援	賛助出演枠を設けて、他団体の出演も紹介する等、県民の文化活動を支援します。	達成	一部達成	これも可能なら、公募することもできたのではないかと。または、今回はぜひ「ゆかむり唄」を紹介したくて賛助会員を願ったのか？
	県民への鑑賞機会の拡大	車椅子対応の観客席を設け、障がい者や高齢者など誰でも気軽に鑑賞できる環境づくりに努めます。	達成	概ね達成	車椅子の手配への感謝の言葉がアンケートにあり、具体的な成果があった。ただスペースを設けて、対応はできるようになっていたが、その対象者の入場が今ひとつだったように思えた。
		アンケート結果等を踏まえ、会員・支援者による口コミ・チラシ配布を中心に、マスメディア等を介して広く県民に周知を図る。	概ね達成	一部達成	街中でほとんどチラシ・ポスターを見かけなかった。広報計画によると、出演関係者の周辺以外での宣伝があまりない。アンケートでは観客の大半が50代以上である。それより下の世代にアピールするには、HP等工夫が必要ではないか。
		入場料金を手軽な金額に設定し、チケット販売・協賛広告料拡大に努め、県民の鑑賞機会拡大を図ります。	達成	達成	プログラムの広告掲載が多く、チケット料金を抑える努力が伺える。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	年少者出場者(初回)には、大会長名で感謝状を授与し、後継者育成につなげる。	達成	概ね達成	初めての年少出場者2名以外の、継続して出演している(と思われる)年少者への意欲付けはどうなのか。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	高校生以下に無料で鑑賞してもらう。	一部達成	一部達成	無料なのはよいが、その対象者の入場者が全体的に少ない。入場してもらうため、広報の仕方に一考の余地あり。
総括			83.3%	55.6%	

## 【成果】

- ・地域の民謡をまとめて一同に聴くと、それぞれの特性や歴史を比べることができ、伝統の継承に重要な役割を担っている。
- ・出演者に小学生も多くあり、次世代の育成も行われている。
- ・民謡を通して、外国との文化交流がなされており、普段聴くことのできない異文化に触れる機会になったのは評価できる。(特に今の社会情勢で韓国との交流は貴重)
- ・生演奏での上演により、地域の伝統であることを観客に印象付けつつ、今後も続けていくことで、伝承者達の励みにもなる。
- ・「牛追掛節」は客席とも一体となり、笑いもこぼれる内容だったので評価できる。
- ・ステージ上の演目説明でなく・プログラムが充実していた点で運営自体はスムーズのように思えた。

## 【課題】

- ・一番は上演時間の問題。時間管理についてもっと敏感に！プログラムの組み方に問題があるのか？事前にわかっていたことなのか？終演予定後は、途中退場者も多く見かけた。アナウンス等の入場者も都合があるので、その配慮を。
- ・入場者にもどうしても偏りがある(中間世代が少ない)。老若男女それぞれへのアピール活動が必要。
- ・せっかくの韓国の演目なのだから、その説明・またやりとりがもう少しあってもよい。
- ・年配の方が多いため、会場の案内・アナウンスに配慮を。
- ・民謡を通して「貝殻節」「三朝小唄」のように、全国に地域を発信(観光等)する一助となる工夫を。
- ・民謡指導者連盟との連携。

# 第17回鳥取県俳句大会(鳥取県俳句協会)

平成24年11月25日(日)、米子コンベンションセンター

## 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝 発承 見と	鳥取の文化アイデンティティの確立	地域に根ざした題材を取り上げ、文化アイデンティティの確立に努めます。	概ね達成	未評価	資料(「作品集」)がもらえず、どんな俳句があるのか全く分からないため未評価とした。
創造	質の高い文化芸術活動	プロとの連携・協働により事業の質の向上に努めます。	達成	概ね達成	各地区の句会で選者との交流を図られているようだが、例えば大会当日、著名な俳人をお呼びして講演などしていただくと勉強になるし、一般の参加者も増えるのではないか。
	県民の参画支援	文化活動への参加が少ない20～50歳代が文化芸術事業に参加するよう工夫します。	一部達成	一部達成	20～30代の人々の姿が見受けられなかった。学校の指導であれだけ素晴らしい句を詠んだ子供たちは、その後どうしているのだろうかと思われた。
拡大	県民の文化活動支援	俳句大会開催によって、ひろく参加(事前投句)を呼びかけます。	達成	概ね達成	事前投句によって多くの作品が集まっているようであるが、大会当日、せめて会員はもっと出席するのが望ましい。大会が盛り上がると思う。
	県民への鑑賞機会の拡大	大会に出席して当日句及び事前投句の入選作品の紹介を行います。	達成	概ね達成	一般の人でも大会に参加できるよう「一般受付」を別に作ったら一般の人も入り易い(その場合、大会の性格の検討が必要だが)。今のままでは、関係者しか入れない雰囲気がある。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	新人・新人作家の発掘及び育成を行います。	一部達成	一部達成	参加者を増やしたいと思ったら、参加したいと思わせる資料も必要。「作品集」がほしいとお願いしたら、関係者分しか作成していないと言われた。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	県下の小・中・高校の児童、生徒に俳句大会への応募を呼びかけ、後日、その作品集をお送り、鑑賞力を養ってもらおうにします。	達成	概ね達成	受賞した児童、生徒の句は学校名が大抵同じで、いかにその学校が力をいれているかの成果の表れである。子どもたちの観察力、表現力を高める意味で、学校がもっと力を入れてもいいのではないかとと思われる。
総括			76.2%	55.6%	

## 【成果】

- ・鳥取県知事賞、教育長賞、俳句協会賞、優秀賞、佳作、選者の特選賞が設定され、表彰の時、受賞者の句を紹介されたのはよかった。日本の言葉の奥深さ、そしてそれを上手に使うことで詠み上げられた句は、作者の観察の鋭さ、感性の豊かさを感じさせ、感心させられた。
- ・子どもたちの句は新鮮で、今後どのように育っていくのであろうかと期待させられる。
- ・小・中学生の参加が多く、小・中学生に俳句への関心を高め、次世代の俳句づくりの裾野を広げる足がかりになるのではないかと。
- ・高齢化社会の中で、俳句や短歌・川柳等が老後の楽しみや生きがい、交流の場として盛んであり、認知症防止にも効果があるといわれている。俳句づくりや句会・結社などでの交流といった文化活動が時代にフィットしている側面があり、本事業もその位置づけ・目標を明確にして発想を柔軟にして取り組みればもっと輪が広がっていくのではないかとと思われる。

## 【課題】

- ・これから俳句を始めたいと思われている方には、先ず会場に足を運んでいただくことが大切。そのためにもっと広報に努め、大会の様子を鑑賞できる雰囲気づくりが必要と思われる。
- ・主催者は、この事業の目的・位置づけを明確にする必要がある。俳句の普及を図り俳句愛好者の裾野を広げていくのか、俳句協会の会員の交流親睦を図るのか。いずれもそれぞれ意義のあることで、両者を追求したいという主催者の思いは理解できる。しかし、現状は仲間内の交流・親睦会の感を否めず、公的資金を投入する事業としてはいかがかと疑問を感じざるをえない。公的資金を活用して事業を継続するのであれば、県民に開かれた事業として多くの人に参加できるように事業内容を改革し、広く県民にアピールする必要がある(会員の高齢化による取り組みの難しさは分かるが)。なお、この項目については、「課題」とすべきか「要改善事項」とすべきか苦慮したが、本事業の在り方の基本にかかわる事柄であり、十分な検討が必要と考え、「課題」ととどめて俳句愛好者の裾野の拡大さらには本事業の発展の観点からの検討に期待したいと思う。
- ・表彰式が長く、進行にも工夫がほしい。
- ・一般の参加者には会の資料の配布(「作品集」～事前の準備は費用もかかり参加者数もつかめないため難しいとは思いますが、複数冊数の回覧程度は可能ではないか～せめて簡単な会のプログラムといったもの)の配布がないため、何が行われているのか全く分からず、疎外感を抱く。一般参加者への手だてが必要である。
- ・子どもの部の表彰が終わると、小・中・高校の児童・生徒とその保護者が引き上げてしまい、いよいよ身内の交流・親睦会の様相。やはりすでに指摘した課題を明確にすることが最大の課題。
- ・高校生を含む若い年齢層を惹きつけるためには、仕掛けが必要ではないか。例えば、今や大きなイベントになったが、松山のNPO法人などによる「俳句甲子園」。15回の年輪を重ねているが、最初は頭を下げて歩くなど決して平坦な歩みではなかったようである。そこまではともかく、創意工夫はできるのではないかと。

県民による「第九」米子公演(第九米子公演実行委員会)

平成24年11月25日(日)、米子市文化ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と 発見と	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県民としての誇りと自信に繋がるような事業を推進します。公募による団員、特に合唱団には音楽活動に初めて取り組む人もいる中で、自信を持って演奏ができるように経験者がリードして練習を重ね、また、初めての人も不安のないように、ステージマナーについても細かく案内します。	達成	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四半世紀の積み重ね、歴史は重く、それが誇りと自信を持った演奏になっている。オーケストラも合唱も、堂々と楽しそうに演奏している印象を受けた。その雰囲気も聴衆にも伝わり、一体感のあるコンサートとなった。</li> <li>・初めて合唱団に加わる人もいて、積み重ねた練習の成果が披露できたと思う。鳥取のアイデンティティということに関しては、第九はよそでも多くやられているので、何か鳥取オリジナルの曲目が加えられたら、さらに良いのでは。</li> <li>・県内3ヶ所持ち回りで開催されるのが良い。東・中・西部分け隔てなく演奏の機会が与えられているのが、鳥取県の文化向上に寄与していると思う。</li> </ul>
創造	質の高い文化芸術活動	プロとの連携・協働により事業の質の向上に努めます。指揮者、ソリスト、またオーケストラ団員の一部がプロであり、それぞれの方に指導・助言してもらうのはもとより、ともに演奏することにより県内奏者も刺激を受け、技術を向上させることを期待します。	達成	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロの奏者が、アマチュアの方たちを上手にリードしていた。両者の連携が上手くいっている。県民がクラシックのコンサートを楽しめる、貴重な機会を提供している。</li> <li>・構成員にプロが存在すると、演奏の質が向上するし、刺激になる。満足度の高い公演ができる。</li> </ul>
	県民の参画支援	出演者を公募し、広く県民が文化芸術事業に携わる機会を提供します。	達成	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観客アンケートの中に、「次回に参加したいが、どこで募集しているのか」という質問があった。もっとキメ細かな周知活動が必要。</li> <li>・合唱団は、経験のない方でも参加できるのが良い。</li> </ul>
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	障がい者や高齢者、乳幼児のいらっしゃる方でも気軽に鑑賞できる環境作り(託児対応、バリアフリー等)に努めます。	概ね達成	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが、車椅子の方を丁寧に誘導していた。乳幼児連れには母子室も用意されたようで、より多くの方が鑑賞できる環境が整備されていた。ただ、主催者の自己評価によれば託児対応に課題があったようなので概ね達成と評価。</li> </ul>
		広く県民への周知を図るため、ポスターの掲示やチラシの配布をはじめ、テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等、様々な媒体を利用した効果的な広報に努めます。	達成	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターも街で見かけ、新聞、ラジオ等のメディア利用も見られ、目標は達成した。</li> </ul>

育成	人材育成 (指導者、 後継者等)	公演当日は会場案内係を設置し、円滑な会場運営を行うよう工夫します。	達成	達成	・会場運営は円滑にできていたが、それだけでは人材育成とは言いがたい。指導者、後継者を育てるような取り組みも必要。 ・これだけ規模が大きくなっているならば、きちんとアートマネージャーが必要で危機管理などもできるようにしておくが良い。
総括			94.4%	88.9%	

## 【成果】

- ・東・中・西の巡回公演で、今年が26回目。実施者の報告に「今年が一番よかった」と言われたとある通り、充実した素晴らしい演奏・合唱だった。各地区の人材が育ってきていると感じる。地方の、アマチュア主体の演奏・合唱でありながら、これだけのレベルがあることは、県民にとっても誇りにつながると思う。積み重ねの成果だろう。観客の満足度はかなり高く、「応援していきたい」「毎年米子で開催してほしい」「一緒に歌いたい」といった感想も多くあった。年末に欠かせない公演となっていることを感じる。演奏の始まりに、第九についての解説があり、楽曲の理解にとっても役立った。観客アンケートでも、解説は好評だった。
- ・オーケストラの奏者は、毎年出演されている方もあり、年々演奏力が向上していると思う。合唱団も良く練習されており、皆姿勢良く、譜面も持たずに堂々と歌って気持ち良かった。
- ・入場者数が目標の600名に対して実績656名であり、成果として高く評価したい。

## 【課題】

- ・観客の満足度は高いが、アンケートの回収率は低い。アンケートに答えた人の満足度しかわからないわけで、回収率のアップが課題である。また、出演者に余計な、見苦しい動きをする人がいたり、一部観客にマナーの悪い人がいたことも、アンケートで指摘されている。クラシックの演奏会である以上、雰囲気は大切。向上を望みたい。
- ・この3年間に、東部、中部、西部と、3公演を鑑賞したが、同じような演出で、独自の個性が見られなかった。いろいろ規制があると思われるが、もっとそれぞれの特色を出して欲しい。
- ・例年米子公演は米子市公会堂で開催されているが、改修の為、今回は文化ホールでの開催で、会場が狭くオーケストラも合唱団も本来の人数がステージに乗ることができなかった。やはり第九は1,000人規模のホールで演奏されるべきと感じた。

# 第34回鳥取県書道連合会展

平成24年12月20日(木)～24日(月)、鳥取県立博物館

## 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度		評価委員会からのコメント
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会評価	
再伝承と 発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	日本の童謡・唱歌を取り上げ、書の内容として制作し、展示する。	概ね達成	達成	童話や唱歌という近年忘れられがちなものが取り上げられ、作品も見やすく展示されていた。
拡大	県民の文化活動支援	漢字、仮名交じりの作品についての講習会を開催する。	概ね達成	未評価	講習会について、事前情報が無かったため未評価だが、自己評価の数字から推し量れば概ね達成といえる。
	県民への鑑賞機会の拡大	読みやすく、親しみやすい漢字、仮名交じり文による作品を展示し(役員による)、広く県民の皆さんに鑑賞していただく。	概ね達成	概ね達成	童話・唱歌や漢字、仮名交じり文による作品を展示したことにより読みやすく、書道に対して親しみやすさを感じていただくきっかけになったと思われる。どこに展示してあるのか鑑賞者に分かりやすい表示があるとより良かった。
総括			66.7%	83.3%	

## 【成果】

- ・オープニングでコーラスがあり、コーラス出演者の関係者など、普段は書の展示に興味がない新しい鑑賞者を呼び込む良い工夫であった。
- ・童謡や唱歌、漢字、仮名交じりの作品が展示されていたため、書かれている内容が比較的わかりやすく、鑑賞者が親しみやすい工夫がなされていた。

## 【課題】

- ・雪の影響があるかもしれないが、平日に鑑賞した評価委員も、休日に鑑賞した評価委員のいずれも鑑賞者が少ないと感じた。せつかく幅広い方が楽しめる工夫(童謡や唱歌、漢字、仮名交じりの作品展示など)をしているのに、会場に足を運ぶ人が少ないというのはもったいない。
- ・入場者数が目標を大きく下回った原因は何か。分析が必要であろう。広報面や開催時期の工夫も課題のひとつではないか。
- ・一般の方には親しみにくい作品にも興味を持っていただけるように、例えば、作品の良し悪しの判断の仕方や、書道を鑑賞するときの楽しみ方などについてギャラリートークを行い、説明するなどの工夫をしていくことが課題である。
- ・ガラスケースの中の釈文が読みにくいという意見がアンケートでも評価委員でもあったため、改善していただきたい。
- ・アンケートの回収率が目標よりも低いため、受付時に「展示室の最後に記入コーナーと回収箱を設置している」との積極的な声掛けをするなど、回収率向上のための工夫をしていただきたい。
- ・アンケートの声の中に、鑑賞者と会場スタッフの私語についての注意があった。その時たまたまだったのかもしれないが、入場者に気持ちよく鑑賞していただけるように、さまざまな点で注意を払ってほしい。

## 鳥取県文化芸術事業評価委員会

### ■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
まつもと かおる 松本 薫	NHK文化センター米子教室・小説エッセイ部門 講師、文芸誌「さるびあ」主宰	会長
はまだ あけみ 浜田 あけみ	社会保険労務士	副会長
うえだ じょう 植田 丞	元県立高等学校非常勤講師	
おかむら ようじ 岡村 洋次	(株)新日本海新聞社記者	
おのうえ あきら 尾上 明	(株)新日本海新聞社中部本社新聞記者	
かどあき かつじ 角秋 勝治	文化芸術評論家、鳥取ガス(株)文化広報室	
かわい はるみ 河合 晴美	元サンケイリビング新聞社編集部	
くもさか ひろみ 雲坂 紘巳	イラストレーター	
こまはら ともみ 駒原 友美	大学生（鳥取大学）	
たなか えつこ 田中 悦子	ダンスコング	
なかむら ゆりこ 中村 由利子	アトリエ yuri（フラワー&アート工房）	
にしお すみこ 西尾 澄子	米子市文化協議会事務局次長	
ぬのひろ わたる 布広 渡	自営業	
はぎはら としろう 萩原 俊郎	(株)新日本海新聞社記者	
はせがわ あかね 長谷川 茜	大学院生（鳥取大学地域学研究科）	
ひしたに てつろう 菱谷 哲郎	米子市文化協議会副会長	
まえだ なつき 前田 夏樹	鳥取短期大学生生活学科准教授	
むらた まゆみ 村田 真弓	鳥取県合唱連盟常任理事	
よしの りゅう 吉野 立	米子市文化協議会常任委員	

## ■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成24年 5月16日(水)	(1) これまでのとりアート実行委員会での評価制度について (2) とりアートの見直しについて (3) 鳥取県文化芸術事業評価委員会の設置について (4) 平成24年度の評価の実施方針について (5) 平成24年度の評価対象事業の決定について (6) 評価項目の作成について
第2回	平成24年 6月6日(水)	(1) 評価項目の作成について (2) 平成24年度の評価の実施方針について (3) 事業評価の流れ (4) 評価事業の現地検証及び執筆担当の決定について
第3回	平成25年 2月4日(月)	(1) 事業別評価の様式について (2) 今後の予定について (3) 事業別評価執筆に当たっての意見交換 (4) 事業別評価の執筆委員(主・副)の決定について
第4回	平成25年 3月18日(月)	(1) 1～3月実施事業の評価結果について (2) 事業別評価シートの修正等について (3) 総合評価の掲載内容(構成、記載内容等)について (4) 別冊(資料編)の掲載内容について

※評価報告会(平成25年2月28日)において、評価結果(案)について事業実施者と意見交換

# 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

## (目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## (評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

## (委員会の任務)

第3条 委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
  - (2) 評価項目の作成及び調整
  - (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
  - (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
  - (5) 被評価者が作成する改善計画の承認
- 2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

## (委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

## (組 織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）のうちから鳥取県文化観光局長が委嘱する委員をもって構成し、選考には公募を取り入れる。

- 2 委員は20名以内とする。

## (会 長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

## (任 期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

## (追加の委員委嘱)

第8条 会長は、委員に欠員が生じ、第3条に定める任務の遂行が困難であるときは、追加の委員委嘱を文化観光局長に要請することができる。

- 2 文化観光局長は、前項の要請の妥当性を確認し、速やかに追加の委員委嘱を行う。
- 3 前項により追加で委嘱された委員の任期は、前条の規定にかかわらず、現任委員の残任期間とする。

(会 議)

第9条 委員会の会議は、鳥取県文化観光局文化政策課長が招集し、会長が議長となる。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

3 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

4 会議は、公開とする。

(事務局)

第10条 会議の事務を処理するため、鳥取県文化観光局文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第11条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補 則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

(準備行為)

2 第5条第1項の規定による委員の委嘱等及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この要綱の施行前においても行うことができる。

平成24年度

## 鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成25年4月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会事務局（鳥取県文化観光局文化政策課内）

電話 0857-26-7134

Fax 0857-26-8108